

2015年度日本建築学会大会(関東)

メインテーマ

「いま、地域と生きる建築」

9月4日(金)～9月6日(日)

東海大学湘南キャンパス(神奈川県平塚市北金目4-1-1)

地域をつくる…それは、建築の大きな役割です。

建築は、地域の人々とともに生活を守り支え、文化を発信しながら歴史を重ねてきました。

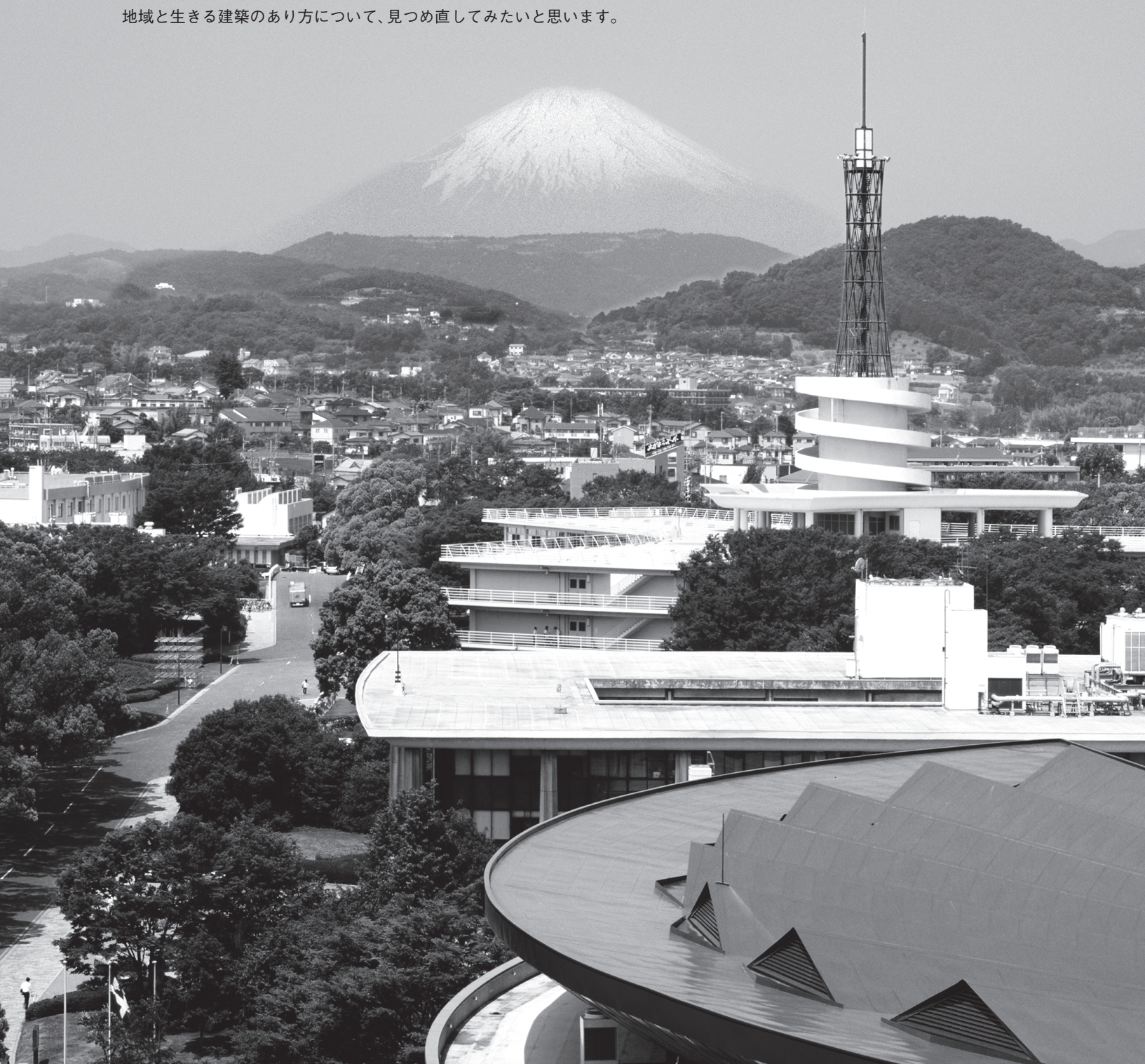
いま、日本は成長型社会から成熟型社会へと大きな転換期を迎え、災害列島としての備え、

自然環境との共生、エネルギー問題、少子高齢社会、人口減少など、多くの課題に直面しています。

建築学は、これらの課題に対し、総合的で多様な視点から地域の創造に寄与すべきと考えます。

グローバル社会の中で、地域に価値を見出し、人々の暮らしや社会をつくる、

地域と生きる建築のあり方について、見つめ直してみたいと思います。



2015 年度日本建築学会大会(関東) 参加概要

会期 ——— 9月4日(金)～6日(日)

会場 ——— 東海大学湘南キャンパス(神奈川県平塚市北金目4-1-1)

メインテーマ ——— 「いま、地域と生きる建築」

大会ホームページ — <http://taikai2015.aij.or.jp>

大会参加費

種別		当日
正会員	一般	6,000円(会員証提示)
	大学院生	3,000円(会員証提示)
準会員		無料(会員証提示)
会員外	一般	9,000円
	大学院生	4,000円(学生証提示)
	学部学生	無料(学生証提示)
	市民 (建築関係者以外)	無料

※発表される方は、上記の大会参加費とは別に発表登録費がかかります(『建築雑誌』2015年1月号 p.51、p.59を参照)。

大会での「能力開発支援制度」履修記録について

本大会の履修登録は、建築CPD運営会議の建築CPD情報提供制度を利用していますので、CPD単位の取得が必要な方は、発表登録費受付に設置する手書き名簿にご記入ください。なお、登録には、建築CPD情報提供制度参加IDや建築士、建築設備士番号等が必要となりますので、各自でご確認ください。大会ではIDを管理しておりません。

1. 「大会プログラム」「DVD版梗概集」の送付

研究発表者(共同発表者も含む)ならびに論文集の予約購読者には、『大会プログラム』、『DVD版梗概集』を7月下旬にお届けします。

2. 参加票の事前送付

大会参加費を事前に納入された方は、参加票を7月下旬にお届けしますので、忘れずにご持参ください。

3. 大会ホームページ

大会の情報は大会ホームページ[<http://taikai2015.aij.or.jp/>]で公開されています。大会懇親会の予約も可能です。

4. 託児室の開設

お子様を同伴する参加者のために大会期間中、会場内に託児室(有料)を設置します。必要なスペースと保育スタッフを確保するため、ご利用は予約制とします。

(1) 対象

託児室の利用は日本建築学会会員が同伴するお子様に限ります。原則として、生後満6ヶ月からの未就学のお子様を対象とします(就学児童のお預かりに関してはご相談ください)。

(2) 利用時間・利用料金

利用日: 2015年9月4日(金)・9月5日(土)・9月6日(日)

時間: 午前の部…9:00～13:00 および午後の部…14:00～17:30

利用者が負担する託児室使用料は2,000円/(人・半日)です。

(3) 申し込み締切

2015年8月10日(月)17:00

詳しくは大会ホームページをご覧ください。

<http://taikai2015.aij.or.jp/nursery/>

5. 体が不自由な方への対応

障がいをお持ちの方にも大会へご参加いただけるようなサービスを準備する予定です。申し込み方法などの詳細は、大会ホームページにてお知らせします。できるだけご要望にお応えできるよう努力しますが、サービス内容は年度により異なる場合がございますので、ご了承ください。

<http://taikai2015.aij.or.jp/barrier-free/>

6. 研究協議会・研究懇談会・パネルディスカッションの資料頒布について

研究集会の資料は、大会期間中「資料頒布所」にて頒布します。各研究集会の開催時刻前に売り切れる場合もございますので、お早めにご購入ください。

7. 大会会場への交通

大会参加者用の駐車場はございません。車でのご来校は控え、公共交通機関を使ってご来校ください。なお、大学周辺での路上駐車は警察の取締対象になります。

8. お弁当のご案内

大会期間中は、大学構内の食堂の混雑が予想されます。弁当の予約をお勧めします(大会ホームページまたは本誌5月号 pp.85～89参照)。

9. 大会会場での電話呼び出しについて

大会期間中は参加者への呼び出しに応じかねますが、緊急を要する場合は総合受付の伝言板に掲示いたします。大会期間中の連絡先については、大会ホームページをご覧ください。

10. インターネットの利用について

大会会場におけるインターネットへのアクセスサービスについては、有線・無線ともにご提供いたしません。あらかじめご了承ください。

2015年度日本建築学会大会(関東)主要行事

開催概要

1. 記念行事

(1) 記念特別講演 「どこにでもある街とどこにもないわたし」

地域性を形態、構造、環境の中に深く織り込んだ建築をつくりつづけ、地域社会に貢献し、文化を創生してきた建築家・内藤廣氏をお招きし、地域と生きる建築のありかた、果たすべき役割について、下記の視点から語っていただきます。

「地域には異なる二つの願望がせめぎあっている。〈地域に身を埋めて大地とともに生きようとする力〉と〈地域から離脱しようとする力〉である。コミュニティとは〈閉じようとする力〉のことであり、もうひとつは近代という名の〈開こうとする力〉のことであり、二つの力は建築に異なる姿を与える。前者は、伝統であり地域の素材であり固有性である。後者は、近代的な技術でありガラスなどの近代的な素材であり匿名性であり、その果ての情報革命のことであり、近代的な技術は暮らしの隅々まで例外なく浸潤している。建築が地域に内在するこの矛盾を乗り越えることができるのかを論じたい。」(内藤廣)

日時 —— 9月4日(金)15:00～17:00(14:00受付・開場)

会場 —— 東海大学湘南キャンパス 2号館2N-101教室

定員 —— 700名(事前申込先着順・入場無料)

講演者 —— 内藤 廣(建築家、東京大学名誉教授)

モデレーター —— 岩岡 竜夫(東京理科大学教授)

申込先 —— 大会HP (<http://taikai2015.aij.or.jp/>)

(2) 記念シンポジウム:「まち・ひと・けんちく」—地方創生とまちづくり—

昨年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、人口減少と東京への一極集中を是正するために国を挙げて動き出しました。現在、全ての都道府県市町村が「地方版総合戦略」の策定を急いでおり、空き家対策、疲弊した駅前再開発、公共施設のマネジメント、全国に広がる耕作放棄地などに対し、地域全体での戦略が求められています。

基調講演では、地域の宝探し、空間がソフトを一層輝かせる手法など、サービスと土地、施設の両面から考えます。またシンポジウムでは地方でまちづくりに関わっておられる建築家の方々や、スローフードの提唱者である作家の方にも加わっていただき、これからのまちと建築のあり方について意見を交わします。

日時 —— 9月5日(土)14:00～17:00(13:30受付・開場)

会場 —— 東海大学湘南キャンパス 松前記念館 講堂

定員 —— 350名(事前申込先着順・入場無料)

基調講演者 — 関 幸子(ローカルファースト研究所所長)

パネラー — 関 幸子(同上)

川向正人(東京理科大学教授、東京理科大学・小布施町まちづくり研究所所長)

竹内昌義(東北芸術工科大学教授、建築家、みかんぐみ共同主宰)

藤村龍至(東洋大学専任講師、建築家)

島村菜津(ノンフィクション作家)

モデレーター —— 杉本洋文(東海大学教授、建築家)

申込先 —— 大会HP (<http://taikai2015.aij.or.jp/>)

(3) 見学会・展示会

1)「厚木の現代建築ツアー」

神奈川県の中心厚木市に位置する二つの学校建築を訪ねます。石上純也氏設計の神奈川工科大学KAIT工房(2009年日本建築学会賞(作品))は、45m四方の空間に鋼製の極細柱が不規則に林立する斬新なデザイン、中村勉氏による七沢希望の丘初等学校(2012年日本建築学会作品選

奨)は、地場産材の使用をはじめ里山との調和が徹底された総合的環境建築です。前者は構造設計者の小西泰孝氏(第3回日本構造デザイン賞受賞)、後者は設計者の中村勉氏にご解説いただきます。

日時 —— 9月3日(木)13:00～18:00(小田急線本厚木駅集合)

場所 —— ①厚木市下荻野1030 神奈川工科大学

②厚木市七沢433-1 七沢希望の丘初等学校

解説 —— 小西泰孝(小西泰孝建築構造設計)

中村勉(中村勉総合計画事務所)

定員 —— 25名(事前申込先着順)

費用 —— 3,000円(貸切バス代)

申込先 —— 大会HP (<http://taikai2015.aij.or.jp/>)

2)「鎌倉の国宝・重要文化財社寺建築の特別拝観」

神奈川県内唯一の国宝建築である円覚寺舍利殿の特別拝観、および2013年に重要文化財に指定された英勝寺仏殿・山門などの見学を行います。英勝寺山門は、関東大震災後他所に移築されていましたが、2010年旧位置に移築・復原されました。見学では、この移築工事を監修された横浜国立大学・大野敏氏にご解説いただきます。

日時 —— 9月3日(木)12:40～16:00(JR鎌倉駅集合)

場所 —— ①鎌倉市扇ガ谷1丁目16-3 英勝寺

②鎌倉市山ノ内409 円覚寺

解説 —— 大野敏(横浜国立大学大学院教授)

定員 —— 25名(事前申込先着順)

費用 —— 2,000円(拝観料)

申込先 —— 大会HP (<http://taikai2015.aij.or.jp/>)

3)「葉山の近代別荘建築」

神奈川県葉山町は、御用邸・皇族別荘を中心に形成された湘南地域有数の近代別荘地であり、優れた別荘建築が多数現存します。これらの別荘や歴史的景観の保存に取り組む「NPO法人 葉山環境文化デザイン集団」のご案内により、通常非公開の別荘建築4棟を内外から見学します。

日時 —— 9月3日(木)13:00～16:30(現地集合)

場所 —— ①三浦郡葉山町長柄 旧石山賢吉別荘(現・柳木邸、1934年)

②三浦郡葉山町堀内 旧東伏見宮別邸(現・イエズス孝女会修道院、1914年、外観のみ)

③三浦郡葉山町一色 加地邸(1928年、遠藤新設計)

④三浦郡葉山町下山口 旧伊藤峯雄別荘(現・本ふじ、1940年)

解説 —— NPO法人 葉山環境文化デザイン集団 高田明子・相馬立夫

定員 —— 30名(事前申込先着順)

費用 —— 3,500円(茶菓子付)

協力 —— 加地邸保存の会、一般社団法人住宅遺産トラスト

申込先 —— 大会HP (<http://taikai2015.aij.or.jp/>)

4)「照明デザイナーとめぐる横浜夜景」

横浜は、芸術・文化の創造性を生かした都市の魅力づくりに取り組み、特に港周辺の都心エリアでは昼間だけではなく夜間の都市景観の創出も試んでいます。象の鼻パーク(2009年)、MARK ISみなとみらい(2013年)等の照明設計を手がけられた照明デザイナーの東海林弘靖氏に、自作を中心にのご案内いただきます。

日時 —— 9月3日(木)18:00～20:00(現地集合)

場所 —— ①横浜市中区海岸通1丁目 象の鼻パーク

②横浜西区みなとみらい3丁目5-1 MARK ISみなとみらい 他

解説 —— 東海林弘靖(LIGHTDESIGN INC. 代表)、
番場俊宏(エイバンバ 代表)

定員 ――― 25名(事前申込先着順)
費用 ――― 2,000円
申込先 ――― 大会HP (http://taikai2015.aij.or.jp/)
5)「東海大学湘南キャンパス 山田守建築ガイドツアー」
キャンパス内に存在する山田守の設計した主な建物(東海大学湘南キャンパス1～3号館・松前会館、武道館など)やランドスケープ(噴水広場、中央ブロムナード等)を、解説付きで巡ります。同時開催中の「建築家山田守展」の入口前に集合し、山田守自身の銅像の前で解散します。
日時 ――― 9月4日(金)～6日(日)12:00～13:00
場所 ――― 東海大学湘南キャンパス1号館1階中央ホール前 集合
費用 ――― 無料(事前申込は必要ありません。大会参加証をご提示ください)
ツアーガイド ――― 大宮司勝弘(東京家政学院大学助教)ほか

6)「建築家山田守展」
山田守(1894-1966)は、近代日本を代表する建築家であるとともに、学校法人東海大学の理事として、本大会のメイン会場である東海大学湘南キャンパス等を設計しました。本展覧会では、山田守の建築家としての業績を、主要な建築作品の模型や写真等を通して振り返ります。
日時 ――― 9月4日(金)～6日(日)10:00～17:00
会場 ――― 東海大学湘南キャンパス1号館1階中央ホール内
費用 ――― 無料
会場構成 ― 岩岡竜夫(東京理科大学教授)
協力 ――― 山田新治郎(写真家)、東海大学工学部建築学科、東海大学学園史資料センター
備考 ――― 本展は、2006年12月に日本建築学会建築博物館ギャラリーで開催された「建築家山田守展～流動するフォルムにみた合理性～」の展示内容の一部です。

2. 開会式
日時 ――― 9月4日(金)9:30～9:45
会場 ――― 東海大学湘南キャンパス 松前記念館 講堂

3. 閉会式
日時 ――― 9月6日(日)17:30～17:45
会場 ――― 東海大学湘南キャンパス 松前記念館 講堂

4. 大会懇親会(有料)
大会懇親会は、「地域を食し、地域を語る」と銘打ち、湘南地域自慢の海と山の幸を取りそろえた、例年とは少し異なる趣向で皆様のご来場をお待ちしております。また、会費前納による割引制度を採用し、特に若い方々には特別価格にてご参加いただけるよう配慮いたしました。会場のコムスクエアは、東海大学湘南キャンパス内に立地しておりますので、お気軽にご参集ください。多くの方が心地よく交流を深めることのできる場となれば幸いです。

日時	9月4日(金)18:00～20:00(受付 17:30～)
会場	東海大学湘南キャンパス コムスクエア
会費	事前申込(2015年8月3日(月)までにお申込みの方) 一般: 6,000円／学生(大学院・学部・高専等): 1,000円(いずれも税込み) 当日申込 一般: 8,000円／学生(大学院・学部・高専等): 3,000円(いずれも税込み)
申込み	事前申込は、本誌5月号p.88の「2015年度日本建築学会大会 宿泊・懇親会・弁当申込書」にご記入の上、FAX・郵送または必要事項内容をE-mail添付にて 8月3日(月)までに

	お送りください。 当日受付は、総合受付の「懇親会受付」および懇親会会場コムスクエア付近に受付場を設置いたします(混雑が予想されるため事前にお申込みいただくことをおすすめします)。
問合せ先	東海教育産業(株)旅行部イエスツアー 神奈川県知事登録第2-839号JATA正会員 〒259-1143 神奈川県伊勢原市下粕屋143 東海大学医学部付属病院内 TEL: 0463-93-3980(代) FAX: 0463-94-8229 総合旅行業務取扱管理者: 一斗尚久 担当者: 田中／夏井 E-mail: aij2015@tokai-eic.com 営業時間: 平日 9:00～17:00、土・日・祝日休業

案内を大会ホームページにも掲載しておりますのでご覧ください。

5. 研究協議会・研究懇談会・パネルディスカッション
9月4日(金)
＜午前＞
・構造〔荷重〕: 建築物の津波荷重に関する新たな研究の方向性を探る
・都市計画: 大学キャンパスを拠点とした地方再生は可能か
・特別調査: 専門家と一般市民のコミュニケーション体系の構築
＜午後＞
・構造〔SCCS〕: 合成構造の国際化に向けて
・構造〔シェル・空間構造〕: 空間構造の設計・解析・施工の最近の発展
・環境工学: 今後の環境工学を担う若手研究者―私の研究スタイル― Part II
・建築計画: iBE論―ビルディングエレメントと構法の過去・現在・未来
・農村計画: 農山漁村の持続力を支える地域組織とは
・建築社会システム: 空き家をデザインする建築社会システム
・建築法制: 社会変化に対応しうる用途規制再構築の方向性―日本型条件付用途許可制度の可能性
・倫理: 建築における専門家倫理―倫理憲章改定と倫理教育の実践
9月5日(土)
＜午前＞
・材料施工: パワースーツは建設作業の作業員不足時代の救世主になるのか?
・構造〔応用力学〕: 「最適設計」の過去・現在・未来
・構造〔基礎構造〕: 大地震における地盤と基礎構造の諸問題と耐震設計
・都市計画: 時空間的不確実性を包含するプランニング・活用・マネジメント
・建築歴史・意匠: 日本の戦後建築への新たな評価軸―主に「技術」の視点から
・建築教育: 建築教育におけるワークショップの方法論とその意義
＜午後＞
・材料施工: 標準仕様書(JASS)・指針類のあり方
・構造〔RC構造〕: RC構造設計の現状と課題―阪神・淡路大震災から20年の歩み
・構造〔振動〕: 大振幅予測地震動を耐震設計にどう取り込むか
・防火: これからの＜建築・都市・環境＞に対応した新たな区画設計を考える
・環境工学: アジア蒸暑地域に映る環境工学の未来
・建築計画: 建築におけるユニバーサルデザインの到達点と展望―建築において多様な人間をどのように捉えるか
・農村計画: 災害としなやかに付き合う知恵―集落計画にどう活かすか
・建築社会システム: 公共施設マネジメントの担い手
・情報システム技術: 地域の「レジリエンス」向上へとつなぐ地域空間情報の応用と展開

9月6日(日)

<午前>

- ・構造〔鋼構造〕: 巨大海溝型地震・内陸地震に対する鋼構造の取り組み
- ・構造〔PC構造〕: プレストレストコンクリートの今後の新しい可能性を語る
- ・都市計画: 都市縮小時代の土地利用計画の最前線ーリバースプロールの実態と土地利用計画にできること
- ・建築歴史・意匠: もう一つの「民家」の系譜ー付属屋と小屋
- ・海洋建築: 事例を通して海洋建築の計画・設計の特徴を考える
- ・地球環境: 都市・建築分野におけるこれからの地球環境対策ーパリ合意に向けて

<午後>

- ・地球環境: 都市・建築分野におけるこれからの地球環境対策ー低炭素な都市・建築をつくる手法と実例
- ・特別調査: 気候変化による災害を防止する建築・都市地域のガイドラインづくりに向けて

6. 2015年度支部共通事業日本建築学会設計競技

「もう一つのまち・もう一つの建築」公開審査・表彰式(全国入選)

日時 ——— 9月4日(金)10:30~15:30(公開審査)
16:45~17:30(表彰式)

会場 ——— 東海大学湘南キャンパス 14号館14-204室

7. 2015年度日本建築学会技術部門設計競技

「自然光を積極的に利用したサステナブル建築の「かたち」」二次審査会・表彰式

日時 ——— 9月5日(土)10:25~13:00(公開審査)
14:00~14:30(表彰式)

会場 ——— 東海大学湘南キャンパス 14号館14-202室

8. 2015年日本建築学会奨励賞贈呈式

2015年日本建築学会優秀卒業論文賞・優秀修士論文賞表彰式

日時 ——— 9月4日(金)15:00~16:10
会場 ——— 東海大学湘南キャンパス 14号館14-202室

9. 2015年日本建築学会作品選集新人受賞者記念講演・表彰式

日時 ——— 9月5日(土)15:45~17:30
会場 ——— 東海大学湘南キャンパス 14号館14-304室

10. 建築作品展

日時 ——— 9月4日(金)~6日(日)9:30~17:30(最終日は15:30まで)
会場 ——— 東海大学湘南キャンパス 14号館地下1階ホール
展示 ——— 2015年日本建築学会賞(作品・技術・業績)
2015年日本建築学会教育賞(教育貢献)
2015年日本建築学会作品選奨
2015年日本建築学会優秀卒業論文賞・優秀修士論文賞
2015年度日本建築学会設計競技全国入選
2015年度日本建築学会技術部門設計競技入選
2015年度全国大学・高専卒業設計
シャレットワークショップ

11. 関連行事

(1)全国建築系大学教育連絡協議会総会

日時 ——— 9月4日(金)9:50~
会場 ——— 東海大学湘南キャンパス 松前記念館 講堂

(2)2015年度学生と地域との連携によるシャレットワークショップ

「小田原のまちづくりデザインを考える」

主催 ——— 住まい・まちづくり支援建築会議
ワークショップ期間—8月28日(金)~9月1日(火) 小田原市内
議評会 ——— 9月4日(金)15:00~17:00 東海大学湘南キャンパス14号館14-309室

作品展示 — 9月4日(金)~6日(日) 東海大学湘南キャンパス14号館地下1階ホール

講師 ——— 小林正美(明治大学教授)、鵜心治(山口大学教授)、岡絵理子(関西大学准教授)、北原啓司(弘前大学教授)、小浦久子(神戸芸術工科大学教授)、野澤康(工学院大学教授)、野嶋慎二(福井大学教授)、他(予定)

募集人数 — 学生30人程度(大学院生、学部生を問わず)

申込方法 — 下記URLより申込フォームにアクセスし、必要事項を記入し、申込手続きを行ってください。参加申込者には、「プロフィールシート」のフォーマットをメール送付いたしますので、下記期限までに送付ください。なお、応募者多数の場合は、プロフィールシートによる選抜の可能性があります。

申込フォーム ——— <http://goo.gl/forms/cyD40ns2MJ>

申込締切 ——— 7月31日(金)

プロフィールシート締切—8月7日(金)

問合せ先 — info@urbandesignsupport.com(運営事務局泉山宛)

(3)学生による語り合いのシンポジオン2015

「学内外における学生主体の建築活動(教育・研究・実践)」

学生諸君は「日々の日常活動を大切に」と考え、まちづくり、住まいづくり、種々ボランティアなど、旺盛なチャレンジ精神で主体的かつ精力的に活動しています。

シンポジオンでは、そうした学生諸君の活動について話題提供の場を設け、語り合いと自由討議により参加者全員で交流いたします。

日時 ——— 9月5日(土)14:00~17:00

会場 ——— 東海大学湘南キャンパス 14号館14-301室

定員 ——— 60名(当日先着順)

内容 ——— 話題提供学生による活動プレゼンテーションおよび自由討議

話題提供チームの募集要項——

関東地区を主とした大学・短大・高専等から5チーム程を募集いたします。もちろん、他地域のチームも歓迎します。

話題提供申込方法——

件名に「建築学会大会シンポジオン話題提供申込み」と明記して、下記の項目を記入の上、E-mailでお申し込みいただきます。なお、チームは必ず複数名で構成していただいております。

- 1) 学校名、所属
- 2) 代表学生氏名(会員・非会員問わず、学部生も大歓迎)
- 3) 代表学生連絡先(住所、電話、E-mailアドレス)
- 4) アドバイザー教員(窓口教員)の氏名と所属
- 5) テーマ(内容が具体的に分かるように、サブテーマも可)

申込締切 — 8月21日(金)

問合せ・申込先 ——— 野田真士(福井大学大学院生)
E-mail: noda_masashi1214@yahoo.co.jp
TEL 090-7740-1688

(4)第7回建築紛争フォーラム「住宅の防水を巡る建築紛争の現状と課題」

主催 ——— 司法支援建築会議

日時 ——— 9月9日(水)13:30~17:00

会場 ——— 建築会館ホール(東京都港区芝5-26-20)

参加費 —— 有料(未定)

主旨説明 —— 宇於崎勝也(日本大学)

内容 —— このフォーラムの趣旨は、建築紛争を巡る課題について司法支援建築会議会員、裁判官、弁護士等で意見交換を行うとともに、学会大会の関連行事として開催することにより支部の活動を促進し、全国の司法支援建築会議会員との交流の場を設けることです。

住宅は屋上防水と地下防水の2箇所です。常に“水”と関わっています。本年はこの点を取り上げ“防水”を巡る建築紛争の現状と課題について広く議論を行います。

詳細 —— 本会ホームページでお知らせします。

(5) プロから学ぶ快適な住まいの環境づくり～授業や市民講座で使えるアイデア集～

共催 —— 子ども教育支援建築会議・地球環境委員会環境ライフスタイル普及小委員会

日時 —— 8月29日(土)～30日(日)

会場 —— 東海大学高輪キャンパス 4号館4101室・4104室
(東京都港区高輪2-3-23)

参加費 —— 無料(要資料代)

詳細 —— 本会ホームページでお知らせします。

連絡先 —— 高橋達(東海大学、E-mail: itaru@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp)

内容 —— 学校や市民講座などで、快適な住まいの環境づくりや暮らし方を教えるために必要な教材の展示(29～30日)と、教育プログラムの体験セミナー(30日)を予定しています。

12. 付随行事

(1) 第30回懇親ゴルフ大会

本会ゴルフ同好会では、同好の士が交流を深めることを目的として大会時に懇親ゴルフ大会を開催しております。本年度においても、下記により実施いたしますので、同好会の皆さまほか多くの方のご参加をお待ちしております。

主催 —— 日本建築学会ゴルフ同好会

- ・会長：中田慎介(高知工科大学名誉教授)
- ・東京幹事：宮下真一(東急建設(株))

日時 —— 9月3日(木)

コース —— 富士小山ゴルフクラブ
〒410-1308 静岡県駿東郡小山町大御神894-1
TEL 0550-78-0111
<http://fogc.jp/>

スタート時間 - 9:00 OUT、IN同時スタート(予定)

プレー費 —— 15,200円(予定)

定員 —— 10組/40名(申込み先着順)

参加費 —— 4,000円(賞品代、懇親パーティー代他)

競技方法 —— 18ホールストロークプレー、ダブルペリア方式(同ネットの場合は、ハンディ、年齢順)

表彰式 —— プレー終了後、ミーティングルームにて表彰式を行います。

申込締切 —— 8月3日(月)事務局宛

申込方法 —— FAXまたはE-mailで、「ゴルフ大会申込み」と表記のうえ、1.氏名、2.生年月日、3.所属、4.連絡先(TEL、FAX、E-mail)を明記して下記にお申し込みください。

(申込書式: <http://www.aij.or.jp/jpn/databox/2015/golf.doc>)

申込者には8月下旬に集合時間等、当日の詳しいご案内をいたします。

申込先 —— 〒108-8414 東京都港区芝5-26-20

日本建築学会ゴルフ同好会(事務局担当: 須藤)

TEL 03-3456-2051 FAX 03-3456-2058

E-mail: sudo@aij.or.jp

(2) 第30回懇親テニス大会(ご注意: 場所が変更になりました)

本会テニス同好会では、2015年度大会にあわせて、下記によりテニス大会を開催いたします。今年度は、30回の記念大会です。多数の皆様のご参加をお待ち申し上げております。

主催 —— 日本建築学会テニス同好会

会長: 斎藤公男(日本大学名誉教授)

副会長: 上和田茂(九州産業大学)

日時 —— 9月7日(月)9:00～15:00

場所 —— 私学事業団総合運動場テニスコート(屋外オムニコート3面)
〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩1-18-1
TEL 03-3695-8200

交通 —— JR総武線 新小岩駅北口下車 徒歩7分
下記のURLを参考にしてください。

私学事業団総合運動場

<https://plus.google.com/106722220757246802687/about?gl=jp&hl=ja>

参加人数 —— 30名(予定)

懇親会 —— 9月6日(日) テニス大会会場近くのホテル(未定)にて夕食を兼ねて総会と記念懇親会(18:30開始予定)を開催いたします。希望があれば、宿泊の予約をいたします。

試合形式 —— チーム対抗方式を前提とし、各試合ペア組み替えによる対戦。

申込み —— E-mailまたはFAXにて「テニス大会申込み」と表記のうえ、1.氏名、2.住所、3.所属、4.連絡先(TEL、携帯、E-mail)、5.懇親会への参加の有無、6.前日宿泊希望の有無をお知らせください。

締切 —— 7月31日(金)

参加申し込みいただいた方には追って詳細の案内をさしあげます。

申込先 —— 日本建築学会テニス同好会事務局(事務局担当: 須藤)

TEL 03-3456-2051 FAX 03-3456-2058

E-mail: sudo@aij.or.jp

関東大会世話人 —— 中西三和(日本大学理工学部特任教授)

nakanishi.mitsukazu@nihon-u.ac.jp

(お申し込みは世話人ではなく、上記の申込先をお願いいたします)

大会懇親会「地域を食し、地域を語る」

9月4日(金)18時より 東海大学湘南キャンパスコムスクエアにて

湘南地域自慢の海と山の幸を取りそろえた、例年とは趣向の異なる懇親会です。多くの方々が心地よく交流を深めることのできる場となれば幸いです。

8月3日までの事前申し込みで2,000円割引

一般: 6,000円 学生: 1,000円

(当日申込 一般: 8,000円 学生: 3,000円)

問合せ先 東海教育産業(株)旅行部

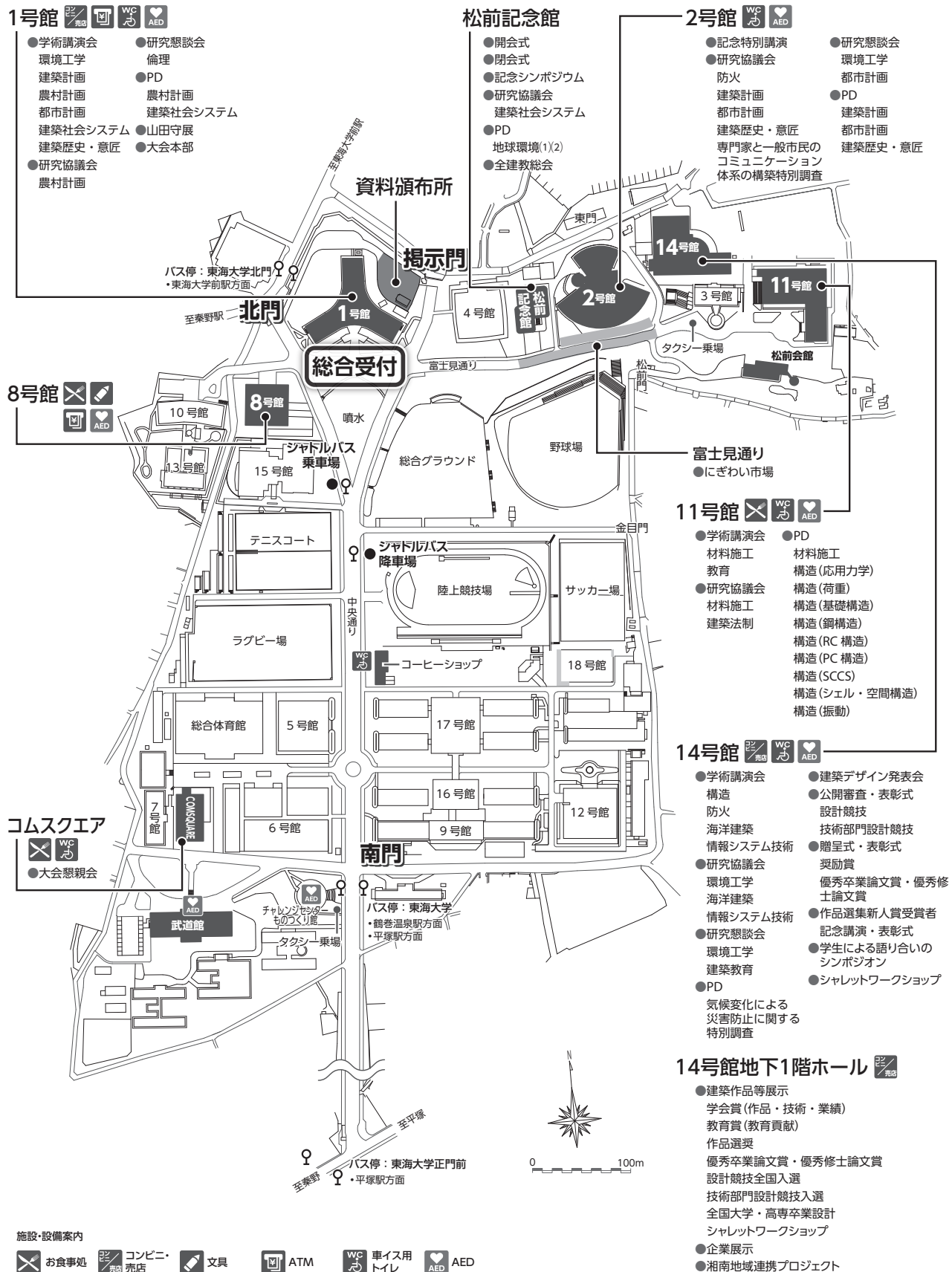
イーエスツアー 担当: 田中/夏井

TEL: 0463-93-3980(代) FAX: 0463-94-8229

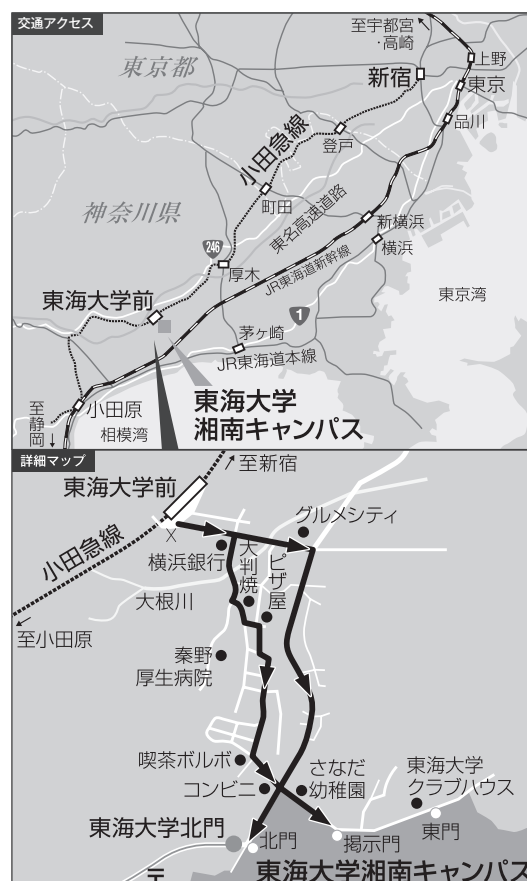
E-mail: aij2015@tokai-eic.com

営業時間: 平日9時から17時(土・日・祝日休業)

2015年度 日本建築学会大会[関東] 会場案内図

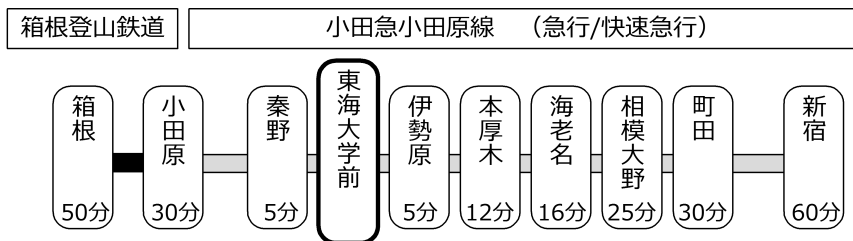


東海大学湘南キャンパスへの交通のご案内



*小田急線の東海大学前駅からの所要時間

(標準時を参考。平日の通勤時間は多少時間がプラスになる場合もありますので予めご注意ください)



最寄り駅は小田急小田原線の「東海大学前駅」です。駅から会場までは徒歩で約20分、また駅ロータリーから会場までの有料直通シャトルバス（所要約10分、片道200円）があります。JR平塚駅からはバス/タクシーで約40分です。駐車場はございませんので車でのご来場はご遠慮ください。

＜電車でのアクセス＞

- | | | | | |
|-----|---|--------------|-----------------|--------------|
| ・新宿 | → | 東海大学前駅（小田急線） | | ：約 60分（630円） |
| ・横浜 | → | 海老名駅（相鉄線） | → 東海大学前駅（小田急線） | ：約 60分（560円） |
| ・東京 | → | 新宿（JR中央線） | → 東海大学前駅（小田急線） | ：約 90分（830円） |
| ・東京 | → | 平塚駅（JR線） | → 東海大学（バス／タクシー） | ：約100分 |

北口バス：神奈中バス秦野行71、74、75系統バス停8番乗車約40分、東海大学正門前下車、徒歩約10分

＜新幹線でのアクセス＞

- ・小田原駅 → 東海大学前駅（小田急線）：約 30分（340円）
- ・横浜駅 → 町田駅（JR線）→ 東海大学前駅（小田急線）：約 60分（650円）

＜空港からのアクセス＞

- ・羽田空港 → 京急蒲田駅（京急線）→ 横浜駅（京急線）→
海老名駅（相鉄線）→ 東海大学前駅（小田急線）：約100分（1,040円）

学術講演会・建築デザイン発表会 研究協議会・研究懇談会・パネルディスカッション 一覧

	棟	松前記念館	2 号館			11 号館			14 号館	
	部門	記念シンポジウム ／研究集会 1	研究集会 2	研究集会 3	記念特別講演 ／研究集会 4	研究集会 5	研究集会 6	研究集会 7	研究集会 8	研究集会 9
	室名	講堂	2E-101	2E-102	2N-101	11-206	11-401	11-402	14-202	14-204
	定員	416	285	285	1000	251	572	400	240	195
9:30～9:45 開会式（松前記念館講堂）										
9月4日（金）	9:45～13:00	全建教総会	都市計画 PD	教育賞講演 特別調査 (専門家と一般市民のコミュニケーション 体系の構築) 研協				構 造 (荷重) PD		10:30～15:30 設計競技 公開審査
	14:00～17:30	教育賞講演 建築社会 システム 研協	建築計画 PD	環境工学 研懇	15:00～17:00 記念特別講演	建築法制 研協	教育賞講演 構 造 (シェル・空間構造) PD	構 造 (SCCS) PD	15:00～16:10 表彰式 (奨励賞・優秀論文)	16:45～17:30 表彰式
9月5日（土）	9:30～13:00		学会賞講演 都市計画 研協	学会賞講演 建築 歴史・意匠 研協		材料施工 PD	構 造 (基礎構造) PD	構 造 (応用力学) PD	10:25～13:00 技術部門 設計競技 公開審査	建築教育 研懇
	14:00～17:30	14:00～17:00 記念 シンポジウム		防 火 研協	建築計画 研協	学会賞講演 材料施工 研協	学会賞講演 構 造 (振動) PD	構 造 (RC 構造) PD	14:00～14:30 表彰式 (技術部門 設計競技) 学会賞講演 環境工学 研協	情報 システム技術 研協
9月6日（日）	9:30～13:00	地球環境 PD (1)	都市計画 研懇	建築 歴史・意匠 PD		構 造 (PC 構造) PD		学会賞講演 構 造 (鋼構造) PD		海洋建築 研協
	14:00～17:30	地球環境 PD (2)							特別調査 (気候変化に よる災害防止) PD	
17:30～17:45 閉会式（松前記念館講堂）										

[注] 研協：研究協議会、研懇：研究懇談会、PD：パネルディスカッション、学会賞講演：2015 年学会賞(論文)受賞者記念講演、教育賞講演：2015 年教育賞(教育貢献)受賞者記念講演

	1 号館									
	建築歴史・ 意匠 1	建築歴史・ 意匠 2	建築歴史・ 意匠 3	建築歴史・ 意匠 4	環境工学 1	環境工学 2	環境工学 3	環境工学 4	環境工学 5	環境工学 6
	1A-302	1A-303	1A-304	1A-305	1A-401	1A-402	1A-403	1A-404	1A-405	1A-406
	101	101	101	97	101	101	101	101	97	97
	9:30～9:45 開会式									
9月4日(金)	9001 } 9023 東洋建築史 エジプト・トルコ・インド／カンボジア・ブータン／ベトナム／韓国・台湾	9105 } 9125 日本建築史 城郭・その他／木割等／建築生産	9220 } 9242 意匠論 都市	9328 } 9351 日本近代 住宅／住宅(地域)／接取住宅・装飾	41428 } 41451 建築設備 1 住宅設備の調査／住宅の設備／ZEH／プロダクティビティ、コストスタディ	41215 } 41232 熱環境 3 環境調整のための蓄熱利用／住宅の温熱環境調査 【OS】 Adaptive Model and Occupant Behavior	41581 } 41603 建築設備 3 放射冷暖房システム／小規模オフィスの省エネ	40284 } 40307 都市環境 1 都市気候実測／街区の温熱感	41657 } 41678 建築設備 4 地中熱利用／水熱源利用／蓄熱システム／熱源システムの新技术	40460 } 40482 環境設計 2 健康／住まい方・ライフスタイル
	9024 } 9045 中国 都市史 アジアほか／水と都市	9126 } 9143 民家	9243 } 9262 都市／作家論・作品論	9352 } 9376 軍事・産業建築／駅／建築家・思想／建築資料・雛形	41452 } 41475 ファサードエンジニアリング／シミュレーション／病院の性能評価	41233 } 41256 太陽熱集熱システムの評価／住宅の温熱性能の実測と解析／住宅の自然通風／パッシブクーリング	41604 } 41626 タスク・アンビエント空調／タスク空調・パーソナル空調／大学の空調設備／個別空調の設計・制御	40308 } 40331 地球環境未来都市研究／環境配慮型都市／リモートセンシング	41679～41687 熱源機器・燃料電池／熱源制御システム 40429～40435 環境設計 1 【OS】環境行動	40483 } 40506 住宅の環境設計／住宅のエネルギー消費量／住民参加・住民意識
9月5日(土)					41476 } 41489 【OS】新世代環境建築のシステム技術／搬送設備	41257 } 41280 アジアのパッシブ建築技術／学校での環境教育と環境実測／ソーラッチムニーと光ダクト／地中熱と太陽熱利用	41627 } 41644 実測評価／デシカント空調システム／空調機器評価	40332 } 40357 都市気候・街区シミュレーション／市街地形態・熱環境／都市緑地	40436 } 40459 地域環境／緑化／木材・木質材料／環境行動	40507 } 40529 CASBEE／環境性能評価／LCA・リサイクル／環境教育
	9046 } 9069 都市史 近世日本の都市／近世日本の集落／近代日本の都市	9144 } 9166 近世社寺 建築論 批評／主体	9263 } 9285 作家論・作品論	9377 } 9400 寺社・教会／記念建造物・庁舎／建築技術／銀行・学校建築						
9月6日(日)	9070 } 9092 西洋建築史 古代・中世／近世／18～19世紀 西洋近代 19～20世紀初頭	9167 } 9194 西東／制作／モダニティ 意匠論 形態	9286 } 9309 イメージ	9401 } 9424 保存 近代建築／戦後建築／アジア・オセアニア／ヨーロッパ・アフリカ	41490 } 41511 オフィスの性能評価／省エネルギー効果検証・最適化／寒冷地建築・各種用途の性能評価／実測調査	41533 } 41558 建築設備 2 ZEB／エコスクール／設備の耐震	41645～41656 熱負荷計算・省エネルギー／システムシミュレーション 40258～40269 水環境 水辺と緑・水質保全／雨水利用・給水給湯性能	40358 } 40379 再生可能エネルギー／都市のエネルギー消費・CO ₂ 排出	40404 } 40428 都市環境 2 住宅のエネルギー／非住宅のエネルギー／都市防災・減災／BCP・DCP	40530 } 40542 【OS】環境バリアフリー／高齢者施設
	9093 } 9104 1910～20年代／1920年代～戦後	9195 } 9219 形態	9310 } 9327 イメージ／構成	9425 } 9440 理念・制度／町並み／技術	41512 } 41532 オフィス・学校の省エネルギー／医療施設／データセンター／工場	41559 } 41580 地中熱利用／太陽光利用・蓄電池／太陽熱利用	40270 } 40283 排水システム／器具排水性能／維持管理・設備耐震	40380 } 40403 都市エネルギー計画支援／エネルギー管理システム／スマートエネルギーシステム		40543 } 40566 非住宅のエネルギー消費量／住宅のバイオマス・省エネ改修
	17:30～17:45 閉会式									

[注] 新人賞講演：2015 年作品選集新人賞受賞者記念講演、枠内の数字：講演番号、[OS]：オーガナイズドセッション

	1 号館									
	環境工学 7	環境工学 8	環境工学 9	環境工学 10	環境工学 11	環境工学 12	建築社会システム 1 ／研究集会 10	建築社会システム 2 ／研究集会 11	建築計画 1	建築計画 2
	1A-407	1A-408	1B-401	1B-402	1B-403	1B-404	1B-204	1B-205	1B-301	1B-302
	97	97	101	97	97	97	117	117	87	97
	9:30～9:45 開会式									
9月4日(金)	40063 } 40085 音環境 床衝撃音	40001 } 40024 環境心理・生理 空間の印象／景観・街並み／地域環境／利用者ニーズ・顧客満足／環境愛着	41001 } 41017 熱環境 1 【OS】開口部の熱性能と周囲温熱環境／開口部の熱・エネルギー性能評価	41147 } 41168 熱環境 2 オフィス・住宅の温熱環境／睡眠環境	41281 } 41299 空気環境 1 換気量評価／住宅の自然換気／厨房換気	41379 } 41402 空気環境 2 臭気：評価法・対策／化学物質：発生・対策／美術館・工場・空気質	8001 } 8024 公共・施設マネジメント／自治体・公会計／公共・ストックマネジメント	8084 } 8107 住情報・住宅市場／履歴情報・木造・民家／住環境・郊外住宅地／人口動態・空き家	5001 } 5022 特別養護老人ホーム／デイサービス・小規模多機能／高齢者施設の計画と評価／高齢者住宅	5101 } 5122 障害児施設・児童養護施設等／ベビー休憩室・子育て支援施設等／保育施設：平面構成・断面構成・面積等／半屋外・屋外空間等
	40086 } 40109 遮音／工事騒音・判例分析／吸音	40025 } 40048 住まいの環境／生理指標／温熱環境／音・光環境	41018 } 41041 住宅の開口部／伝熱解析・気象データ／熱負荷解析／熱性能測定	41169 } 41192 室内温熱環境と血圧／温冷感と快適性／温熱感評価手法	41300 } 41323 厨房換気／病院の換気／換気性能・評価／室内気流の解析手法	41403 } 41427 放射性物質／空気質実測／浮遊粉じん／微生物：実態・評価・対策	倫理 研 究	農村計画 PD	5023 } 5040 在宅高齢者支援／高齢者グループホーム／障害児・者の住まい	5123 } 5131 保育施設：認可外・高架下型等／家庭的保育施設
9月5日(土)	40110 } 40130 【OS】室内音場の先進的な測定・解析・評価／室内音場の解析・評価／音場数値解析／聴感印象	40049～40062 理論・手法／知的生産環境 40143～40152 環境振動 地盤振動／振動制御・対策	41042 } 41063 真空断熱材／潜熱蓄熱材／省エネルギー基準	41193 } 41214 駅の温熱環境／サーマルマネキン・人体熱モデル／温熱生理・心理反応／パフォーマンス	41324 } 41347 建物周辺気流の計測・CFD解析／植生キャノピー、風の道、大気拡散／自然換気・風圧係数／オフィスの自然換気	40184 } 40202 光環境 明るさとタスク・アンビエント照明／省エネルギー照明システム／照明の不均一性と変動／【OS】LED・OLED時代の視環境評価	8025 } 8048 FM, LCC／不動産、施設マネジメント／コスト、プロジェクトマネジメント／投資、発注者要求	8108 } 8134 専門家の関わり・ライフステージ／リノベーション／シェア居住／居住環境・生活行動	5041 } 5062 美術館・博物館／劇場・ホール／図書館	5132 } 5155 大学／学校の設計プロセス／特別支援教育
9月6日(日)	40131～40142 音声伝送・スピーチプライバシー／学校・保育施設の音環境／騒音伝搬 40248～40257 電磁環境 計測評価／電磁環境／磁界ほか	40153 } 40166 【OS】外部振動源による地盤と建物応答／振動予測・解析	41103 } 41127 伝統的材料の吸放湿特性／湿気物性のモデル化／フィールドスタディ／調湿・透湿評価／吸放湿	41064 } 41085 遮熱／断熱改修／住宅等の温熱環境	41348 } 41361 【OS】境界層流のモデル化／【OS】建物周辺・都市キャニオン流れのCFD解析／【OS】求市街地の気流、拡散の予測／都市キャニオン流れのモデル化	40203 } 40226 昼光光源／採光装置／照明・ブラインド制御／昼光利用・照明シミュレーション	8049 } 8073 解体・副産物／改修・コンバージョン／BIM／海外比較	8135 } 8148 【OS】集合住宅管理・再生／マンション管理・賃貸住宅	5063 } 5086 病院の全体計画／病棟・外来・救急／精神科病院／子どもの療養環境	5156 } 5180 地域との連携・複合／海外の教育施設等／幼小・小中一貫校、高校
		40167 } 40183 建物・床振動／振動感覚・性能評価	41128 } 41146 文化財保存／湿害／湿気とリスク	41086 } 41102 住宅等の温熱環境／業務建物の温熱環境／温熱制御	41362 } 41378 人体周辺気流／空調・換気方式と気流性状／クリーンルーム／窓開閉・換気による室内環境	40227 } 40247 景観色彩／インテリア色彩／視覚特性／睡眠・覚醒／住宅の照明	8074 } 8083 構工法／技能・教育	8149 } 8175 マンション建替・解消／居住支援／復興的施設／住宅／高齢者	5087 } 5100 病院のファシリティマネジメント／歴史的施設／各種施設	5181 } 5199 小学校／小学校オープンスペース／中学校
	17:30～17:45 閉会式									

	1 号館									
	建築計画 3	建築計画 4	建築計画 5／ 研究集会 12	建築計画 6／ 研究集会 13	建築計画 7	農村計画	都市計画 1	都市計画 2	都市計画 3	都市計画 4
	1B-303	1B-304	1B-305	1B-306	1B-307	1B-405	1A-301	1C-301	1C-302	1C-303
	97	97	155	155	101	101	101	101	155	155
	9:30～9:45 開会式									
9 月 4 日 (金)	5200 ～ 5221 庁舎・再編・転用／複合施設・コンバージョン・コミュニティ施設・再編・ネットワーク／スポーツ施設・火葬場・霊園	5478 ～ 5499 街と住宅地の動向／地域とコミュニティ／伝統住宅と空間利用／住宅計画史	5587 ～ 5607 ハウジング・住宅政策／海外の居住空間と住まい方／海外の儀礼宗教空間と建築	5246 ～ 5268 行動観察とシミュレーション／移動の行動観察／サイン・経路選択／街のイメージ	5415 ～ 5431 構法の変遷／地域の構法／木造構法	6001 ～ 6022 過疎地域／地域活性化／農林資源／生活支援	7001 ～ 7004 【OS】新しい住環境価値の創造	7100 ～ 7123 南海トラフ地震等の避難対策／津波避難リスク評価／市街地火災対策／防災まちづくり情報システム	7179 ～ 7201 歴史的景観まちづくり／歴史的町並み／景観計画・文化的景観／海外都市の歴史的景観	7241 ～ 7253 【OS】被災地と空地／【OS】線引き制度／【OS】市街地の集約／【OS】まちなか活用
	5222 ～ 5245 駅・大型商業施設／高速道路・休憩施設／オフィス・コワーキング／オフィスの心理・空間構成	5500 ～ 5522 セルフリノベーション／戸建リフォーム／集合住宅リノベーション・仮設住宅	5608 ～ 5631 海外の集合住宅／海外の伝統的住居と空間／海外の住宅地／海外の都市空間	5269 ～ 5284 都市・視覚／外観評価／シークエンス	5344～5354 歩行流動 5371～5381 日常災害・避難・防犯／避難所・避難区域	6023 ～ 6046 景観・植物／建築と生活文化／共同空間／土地利用と公共施設	7005 ～ 7028 公共空間・施設の利活用と整備／駅前・駅周辺市街地のまちづくり／持続可能な都市形成／都市交通	7124 ～ 7147 東日本大震災・住宅再建／協働のまちづくり／タウンブランニング／土地利用規制と仮設施設	7202 ～ 7221 避難シミュレーション／災害情報とリスク評価／長期の避難生活／海外の災害復興スタディーズ	7254 ～ 7259 【OS】環境と土地利用／【OS】郊外の変容と基盤整備
9 月 5 日 (土)		5523 ～ 5544 共同居住・多世代居住／住まい方・住戸への要求／ライフスタイル／男性の家事参加	5632 ～ 5655 戸建て住宅地／戸建て住宅・コミュニティ／高齢者の住環境と家族支援／高齢者の生活様式	5320 ～ 5343 視覚障害／スロープ・段差／重度身体障害・発達障害・施設のバリアフリー化／商業・施設のバリアフリー	5432 ～ 5447 構法原理・構法の記述／構工法の開発／改修・修繕・維持管理	6047 ～ 6061 集落空間／移住・定住／【OS】空き家と地域				
			学会賞講演 農村計画 研協	建築社会 システム PD			7029 ～ 7051 中心市街地と商業空間／商店街活性化／再開発と街区更新／密集市街地の空間構成と変容	7148 ～ 7171 防災教育と市民防災力／防災人材育成と啓発／多様な避難生活／避難施設	7222 ～ 7240 【OS】歴史文化と観光まちづくり／【OS】観光マネジメント組織／観光地域の分析／観光・都市政策	7260 ～ 7283 商業施設と土地利用／都市計画制度／都市構造と拠点／交通と空間
9 月 6 日 (日)	5448 ～ 5465 参加と合意形成／コミュニティ形成／居場所・修景	5545 ～ 5564 要介護高齢者の住まい／サービス付き高齢者向け住宅／子どもの住まい／集合住宅	5656 ～ 5669 【OS】地域の空間マネジメントと居住の安定／【OS】人口の長期動態と居住の安定／【OS】災害からの生活再建と居住の安定／【OS】日常生活圏域の構築と居住の安定／【OS】高齢期の生活支援と居住の安定	5285 ～ 5307 空間構成／サイン・広告計画／絵画・表現	5382 ～ 5402 POE・プログラミング／設計評価／設計プロセス／ワークショップ	6062 ～ 6085 ブータンの伝統的集落／海外の伝統的集落／海外の生活文化／民家の実態把握	7052 ～ 7075 子どもと参加／学びと住民参加／主体間協働／まちづくりと組織	7172 ～ 7178 逃げ地図ワークショップ		7284 ～ 7304 高齢者と福祉／歴史的市街地の空地・空家／既成市街地の空地・空家／郊外・広域の空地・空家
	5466 ～ 5477 環境配慮・ストック／安全・防災	5565 ～ 5586 分譲マンション／団地再生／団地とコーポラティブハウスの終年		5308～5319 視覚評価／住宅評価 5355～5366 空間選好／人体・動作	5403～5414 作家設計手法／設計情報の抽出と反映 5367～5370 行動特性	6086 ～ 6102 東日本大震災／事前復興・減災	7076 ～ 7099 担い手と連携／市民参加プロセス／市民参加手法／住宅地			7305 ～ 7328 市街地とコミュニティ形成／施設とコミュニティ／住環境と多様な居住者構成／コミュニティ活動
	17:30～17:45 閉会式									

	1 号館		11 号館							14 号館
	都市計画 5	都市計画 6	材料施工 1 ／教育	材料施工 2	材料施工 3	材料施工 4	材料施工 5	材料施工 6	材料施工 7	構造 1
	1C-304	1C-305	11-101	11-102	11-103	11-201	11-202	11-203	11-204	14-201
	142	142	108	108	180	108	108	108	180	195
	9:30～9:45 開会式									
9 月 4 日 (金)	7329 } 7333 【OS】「環境」から都市計画を見つめ直す	7402 } 7424 街路・公園／広場・オープンスペース／空地とネットワーク／公共空間	1001 } 1022 材料施工 モルタル・コンクリート・フレッシュ性 状／硬化体組織	1071 } 1088 圧縮強度管理	1179 } 1202 試験・検査・評価	1298 } 1308 耐久計画・耐久設計／リサイクル	1393 } 1415 左官・タイル	1498 } 1519 ボルト・金属材料／溶接材料・溶接条件	1562 } 1584 ウレタン塗膜防水／シート防水／高日射反射防水	21001 } 21020 振動 地震被害／首都圏の地震動評価／数値計算による地震動評価
	7334 } 7345 【OS】空間資源マネジメントによる大学キャンパスと地域の創造的再生：地域コミュニティとキャンパス／キャンパスの評価・デザインと地域	7425 } 7448 都市計画史／都市認識の方法と適用／都市組織と空間変容／都市形成と空間認識	1023 } 1046 コンクリート用材料・水・セメント／骨材・混和材	1089 } 1112 圧縮強度管理・その他／強度・力学的性質	1203 } 1226 既存建物調査／維持保全・調査	1309 } 1323 エコマテリアル／L C A ・L C C O ₂	1416 } 1431 タイル・石材／メーソニリー	1520 } 1541 溶接欠陥／検査、鉄骨構法／木材	1585 } 1606 耐久性／塗膜防水・その他／防食ライニング・その他／雨水侵入・漏水	21021 } 21045 地盤震動特性／H/Vスペクトル／地下構造／表層増幅評価
9 月 5 日 (土)			1047 } 1070 コンクリート用材料・混和材／特殊型枠・コンクリートの表面性状	1113 } 1136 高強度コンクリート／CFTコンクリート／高流動・ポリマーセメント	1227 } 1249 補修材料／補修改修事例／解体／再生コンクリート・軽量コンクリート	1324 } 1347 収縮・クリープ・その他	1432 } 1455 塗料	1542 } 1561 木造・屋根	1607 } 1628 シーリング材／ガスケット・止水材	21046 } 21070 動力学断層モデル／震源特性／強震動予測・再現
	7346 } 7369 施設立地の景観解析／都市のアクセシビリティ／マスタープラン／形態規制	7449 } 7466 施設の配置と空間構造／マスタープランと都市政策／まちづくりと地域コミュニティ	13001 } 13016 建築教育 建築教育手法／体験型教育／構造・施工教育							
9 月 6 日 (日)	7370 } 7391 都市解析／都市シミュレーション／景観シミュレーション手法／景観分析	7467 } 7490 街路景観の定量的評価／景観の構造／街路景観の印象評価／街路ファサードの景観分析	13017 } 13030 教育カリキュラム・制度／初等・中等住教育／市民・子ども教育、防災教育	1137 } 1160 鉄筋工事・打込み・打ち継ぎ	1250 } 1273 繊維補強／自己治癒・繊維補強／環境対応型コンクリート	1348 } 1371 凍害・中性化／耐久性一般	1456 } 1475 ALC／カーテンウォール・サイディング／外装／アスベスト		1629 } 1650 BIM／機械化施工／検査・計測／施工・安全	21071 } 21093 巨大地震の強震動／距離減衰／伝播・サイト特性
	7392 } 7401 事業実態と都市のアメニティ／風景の視覚的評価	7491 } 7514 住民主体の活動／まちづくり活動／景観論／景観とランドスケープ		1161 } 1178 型わく工事・試験・検査方法	1274 } 1297 環境対応型コンクリート／プレキャスト	1372 } 1392 耐久性一般／寒中・暑中コンクリート／マスコンクリート／重量コンクリート	1476 } 1497 内装／床			21094 } 21104 設計用地震動／震源近傍の地震動
	17:30～17:45 閉会式									

	14 号館									
	構造 2	構造 3	構造 4	構造 5	構造 6	構造 7	構造 8	構造 9	構造 10	構造 11
	14-205	14-206	14-207	14-208	14-209	14-210	14-401	14-402	14-403	14-404
	102	102	102	102	104	104	111	111	111	111
	9:30～9:45 開会式									
9月4日(金)	21105 } 21123 振動 相互作用：杭 連成応答、解 析、実験・観 測	21206 } 21227 振動 積層ゴム	21320 } 21337 振動 免震観測・防 振／戸建免震 ・津波荷重／ 免震改修	21415 } 21435 振動 振動台実験／ 振動実験／起 振機実験／強 震時行動難度		20199 } 20220 基礎構造 杭の水平	20310 } 20330 シェル・ 空間構造 各種シェル構 造／立体骨組 の静的耐力・ 動的挙動	20403 } 20425 シェル・ 空間構造 天井：耐震性 能、クリアラ ンス、静的実 験	22306 } 22329 鉄骨構造 梁接合部／柱 脚	22418 } 22442 鉄骨構造 圧縮材／梁材
	21124 } 21147 応答特性とそ の評価	21228 } 21250 転がり・すべ り支承／ダン パー／緩衝材	21338 } 21359 慣性質量／TMD ／増幅機構	21436 } 21461 建物地震観測 ／建物常時微 動	20001 } 20022 荷重・信頼性 津波荷重／地 震動評価／地 震リスク／シ ステム信頼性 ／等価線形応 答・不整形性	20221 } 20244 杭の鉛直／山 留め		20115 } 20134 応用力学・ 構造解析 木造／数値解 析	22330 } 22354 トラス接合部 柱接合部ほか ／ガセットブ レート接合部 ほか／設計法	22443 } 22462 梁材
9月5日(土)	21148 } 21171 応答特性とそ の評価	21251 } 21274 制動装置／擁 壁衝突／パル ス性地震動／ 応答解析	21360 } 21383 アクティブ・ セミアクティ ブダンパー／ 摩擦ダンパー ／鋼製ダンパ ー	21462 } 21484 モニタリング ・センサー／ 損傷検知・振 動台実験／観 測・モニタリ ング／モニタ リング	20023 } 20044 耐震継続使用 性／海外規 準、LRFD法 ／温度荷重		20331 } 20348 立体骨組の動 的挙動／体育 館ほか／形状 探索・最適化	20426 } 20450 シェル・ 空間構造 天井：静的実 験、システム 天井、振動台 実験、落下対 策	22355 } 22379 柱梁接合部	22463 } 22487 柱材／その他 の部材
					20045 } 20069 雪荷重・耐雪 設計／降灰荷 重／風観測・ 風環境／数値 流体計算	20245 } 20268 土の性質・調 査／小規模建 築物基礎／地 盤改良	20349 } 20371 形態創生／展 開構造／構造 システム／構 造イノベーション	20135 } 20156 応用力学・ 構造解析 不安定問題／ 修復性／非線 形解析	22380 } 22403 柱梁接合部	22488 } 22507 耐震補強／地 球環境問題・ 歴史
9月6日(日)	21172 } 21195 応答特性とそ の評価	21275 } 21299 免震実験／応 答スペクトル 法／免震設計 法／風応答	21384 } 21409 評価法／粘性 ・粘弾性ダン パー	21485 } 21509 損傷判定手法 ／損傷検知・ 数値解析／局 所的損傷検知 ／震災対応訓 練	20070 } 20094 竜巻・突風／ 高層建築物	20269 } 20289 動的問題／液 状化	20372 } 20391 膜構造／張力 構造	20157 } 20181 最適設計／シ ステム同定／ 構造計画		
	21196 } 21205 応答特性とそ の評価	21300 } 21319 杭頭免震／中 間層免震／多 段・連結免震	21410 } 21414 ガラス制振 (震)壁	21510 } 21533 地震被害分析 ／被害予測・ 推定／室内被 害シミュレー ション	20095 } 20114 園芸用ハウス ・膜構造／耐 風性能評価／ 疲労損傷・耐 力評価／外装 システム・飛 散物	20290 } 20309 液状化／パイ ルド・ラフト基 礎／併用基礎 ・直接基礎	20392 } 20402 木質系シェル ・ガラス／ブ レストレスシ ェル・多孔板	20182 } 20198 衝撃解析／振 動・波動解析	22404 } 22417 柱梁接合部／ 素材特性	22508 } 22530 ボルト・高力 ボルト／溶接
	17:30～17:45 閉会式									

	14 号館									
	構造 12	構造 13	構造 14	構造 15	構造 16	構造 17	構造 18	構造 19	構造 20	防火 1
	14-405	14-406	14-407	14-408	14-409	14-410	14-501	14-502	14-504	14-301
	102	102	102	102	111	111	111	111	111	102
	9:30～9:45 開会式									
9月4日(金)	22531 } 22554 鉄骨構造 ブレース	22643 } 22666 SCCS SCCS設計・解析／SRC構造／CES構造	22001 } 22024 木質構造 材料特性	22128 } 22151 木質構造 面材壁	22258 } 22281 木質構造 新工法・特殊構法	23001 } 23024 RC構造 RC材料・継手・付着・せん断	23110 } 23133 RC構造 RC構成則・解析法／あと施工アンカー・スタッド	23214 } 23237 RC構造 RC梁	21534 } 21550 原子力プラント 地震観測・耐震設計／耐震解析／構造実験	3001 } 3017 金属系構造・材料／【OS】コンクリート系構造の耐火性に関する最近の研究動向
	22555 } 22578 ブレース／耐震壁		22025 } 22046 材料特性／部材性能／腐朽・蟻害、柱頭柱脚接合部	22152 } 22174 筋かい壁／土塗り壁／板壁・面格子壁／厚板・開口壁	22282 } 22305 免震・制振／部位設計法	23025 } 23048 RC材料・継手・付着・せん断／RC柱	23134 } 23155 RC構成則・あと施工アンカーほか／RC耐震壁・スラブ	23238 } 23262 RC梁	21551 } 21571 構造実験／コンクリート材料／不信事象ほか	3018 } 3041 合成構造／RC造系部材・材料／防・耐火試験法／火害診断・補修／その他の材料
9月5日(土)	22579 } 22601 その他の耐震要素／平面骨組	22667 } 22689 RCとSの混合構造／ずれ止め	22047 } 22070 接合具／モーメント抵抗接合	22175 } 22198 CLT／荷重・応答予測法	23382 } 23405 壁式構造・組構造 補強・枠組・無筋・海外の組構造／CB壁、設計法、壁式PCa造／耐震診断・補強	23049 } 23069 RC柱／RC非構造壁	23156 } 23175 RC耐震壁・スラブ／RC部材接合／RC耐震壁振動台実験	23263 } 23287 RC梁／RC設計・性能評価／RC耐震性能	21572 } 21583 原子力免震	3042 } 3062 木質耐火構造／木質構造・材料
	22602 } 22625 平面骨組／立体骨組	22690 } 22714 CFT柱、架構／CFT長柱・梁・杭／CFT柱梁接合部・柱継手	22071 } 22079 モーメント抵抗接合	22199 } 22209 屋根・床／水平構面	23354 } 23369 PC構造 PC柱梁接合部／アンボンド・せん断、曲げ					学生による語り合いのシンポジオン
9月6日(日)		22715 } 22725 座屈拘束ブレース、サンドイッチパネル／FRPや木質材料を用いた合成構造、耐震補強	22080 } 22103 継手・仕口／実状・実態調査	22210 } 22233 伝統建築耐震診断・補強／伝統部位・構造要素		23070 } 23093 RC梁柱接合部	23176 } 23200 スラブ有効幅・損傷推定・実大5層RC／RC震害	23288 } 23310 RC基礎・杭・杭頭接合部／RC地震応答／RC制振、解析法	23323 } 23341 RC構造 RC耐震補強：外付け・架構	3063 } 3079 【OS】木質防火建築／CLTパネル建築物の防耐火技術
	22626 } 22642 振動／その他の骨組		22104 } 22127 被害調査／耐震診断・評価	22234 } 22257 伝統構法・応答解析／伝統的建造物補強ほか	23370 } 23381 プレキャスト・材料・ひび割れ／PC架構・解析	23094 } 23109 RC梁柱接合部	23201 } 23213 RC耐震診断／RC免震、制振(震)補強ほか	23311 } 23322 RC耐震補強：柱・梁ほか	23342 } 23353 RC耐震補強：壁・ブレース	3080 } 3088 ガラス・膜構造の防火性能／ガasket材料の発熱特性
	17:30～17:45 閉会式									

14 号館						
防火 2	建築デザイン (展示)	建築デザイン A	建築デザイン B	建築デザイン C	情報システム技術 ／海洋建築	建築作品展
14-302	14-3F 南側 ホール	14-304	14-305	14-306	14-310	地下 1 階ホール
102		151	151	102	111	
9:30～9:45 開会式						
9 月 4 日 (金)	3089 } 3111 材料・物品の 燃焼性／区画 火災性状・噴 出火災性状／ 燃焼拡大性状				11001 } 11019 情報システム 技術 GIS・都市／ 景観・環境／ 計測・システ ム化技術	建築作品展 ・学会賞(作品・技術・業績) ・教育賞(教育貢献) ・作品選奨 ・設計競技全国入選 ・技術部門設計競技入選 ・優秀卒業論文・優秀修士論文 ・全国大学・高専卒業設計 ・シャレットワークショップ (最終日は 15:30 まで)
	3112 } 3129 都市防火性能 評価／都市火 災性状と広域 避難／【OS】 火災安全工学 と総合防災				11020 } 11040 CAD・BIM／ シミュレーシ ョン／アルゴ リズムミックデ ザイン	
9 月 5 日 (土)	3130 } 3148 【OS】層内分 布や伝播速度 を考慮した煙 性状／煙性状 ／避難	14001 } 14019 スマートウェ ルネス建築デ ザイン	14073 } 14092 地域や歴史と親和性のある 建築：歴史的建築の再生と 地域との景観的調和／セルフ ビルドと共同による地域再生 と災害復興／ひとの目線から 地域の景観を整える試み	14113 } 14133 都市と再生／ 伝統と再生	11041 } 11051 【OS】建築モニタリングと 人間計測・センシング技術 ／【OS】建築のデザイン科学	
		14020 } 14031 設計プロセス	14093 } 14112 柔らかな建築：「やわらかな」 社会インフラ／「やわらかく」 順応する建築／「やわらかな」 建築システム	14134 } 14153 場所と流れ：流れが会おう 場所／流れを喚起する建築 ／流れと境界	10001 } 10023 海洋建築 空間利用／津波避難／津波 と衝撃／ウォーターフロント ／津波荷重	
		15:45～17:30 新人賞講演・表彰式				
9 月 6 日 (日)	3149 } 3169 【OS】火災安全性能の定量化と 火災安全設計／火災リスク・火 災安全性評価／火災安全設計／ 総合防災	建築デザイン ポスター展示	14032 } 14051 自然との関係を拡張する都市の 建築：建築・都市の中の自然／ すむことの中の自然／自然の中 の建築・都市	14154 } 14174 教育施設／地域再生／再生と 改修		
			14052 } 14072 大きな家		10024 } 10043 津波防災／津波と衝撃／連成 解析と逆問題／海洋エネルギー	
17:30～17:45 閉会式						

2015年学会賞(論文)、教育賞(教育貢献)、作品選集新人賞受賞者記念講演

●学会賞(論文)

分野	講演題目	講演者	期日	時間	会場	司会
材料施工	外気環境により劣化するRC外壁の目的指向型耐久設計技術の確立に関する研究	大久保孝昭	9月5日(土)	14:00～14:15	11号館11-206室 (材料施工研協)	早川光敬 (材料施工委員会委員長)
構造	免震構造物の地震応答評価法に関する一連の研究	菊地優	9月5日(土)	14:00～14:15	11号館11-401室 (構造[振動]PD)	緑川光正 (構造委員会委員長)
	小規模木質制振構造の力学的挙動の解明と設計法に関する研究	坂田弘安		14:15～14:30		
	銅構造梁部材の横座屈終局限界性能の評価と限界状態設計法への応用に関する研究	井戸田秀樹	9月6日(日)	9:30～9:45	11号館11-402室 (構造[銅構造]PD)	
環境工学	都市と建築の環境・エネルギーの最適設計手法に関する研究	大岡龍三	9月5日(土)	14:30～14:45	14号館14-202室 (環境工学研協)	羽山広文 (環境工学委員会委員長)
	都市のみどりと建築群が都市気候へ与える影響の予測評価のための基礎的研究	萩島理		14:45～15:00		
農村計画	集落と居住の持続性に関する地域計画的研究—能登半島地震・被災集落を対象にして	山崎寿一	9月5日(土)	14:00～14:15	1号館1B-305室 (農村計画研協)	岡田知子 (農村計画委員会委員長)
都市計画	地方の城下町都市における近代都市景観・計画史に関する一連の研究	野中勝利	9月5日(土)	9:30～9:45	2号館2E-101室 (都市計画研協)	有賀隆 (都市計画委員会委員長)
建築歴史・意匠	建築保存概念の生成史	清水重敦	9月5日(土)	9:30～9:45	2号館2E-102室 (建築歴史・意匠研協)	後藤治 (建築歴史・意匠委員会委員長)

●教育賞(教育貢献)

講演題目	講演者	期日	時間	会場	司会
体験型研修施設による建築技術者の育成および教育関係者・学生への「建築」研修プログラムの実施	木谷宗一 (株式会社竹中工務店 竹中技術実務研修センターチーム)	9月4日(金)	9:45～10:00	2号館2E-102室 (特別調査研協: 専門家と一般市民のコミュニケーション体系の構築)	倉淵隆 (教育賞選考委員会委員)
構造技術者を志す学生向けの国際トラスコンテストを通じた継続的教育活動	大森博司 (国際トラスコンテストの会)	9月4日(金)	14:00～14:15	11号館11-401室 (構造[シェル・空間構造]PD)	緑川光正 (教育賞選考委員会委員長)
シニアボランティアから世代をつなぐ居住文化体験プログラムの実践—大阪くらしの今昔館の町並み展示を活用したアクティブラーニング	碓田智子	9月4日(金)	14:00～14:15	松前記念館 講堂 (建築社会システム研協)	小林秀樹 (教育賞選考委員会委員)
ストック型社会におけるリノベーションスクールを通じた人材育成と地域再生事業	徳田光弘		14:15～14:30		

●作品選集新人賞

講演題目	講演者	期日	時間	会場	司会
aoihana	伊藤孝紀	9月5日(土)	15:45～15:50	14号館14-304室	北山恒 (建築デザイン発表会運営委員会委員長)
LT 城西	猪熊純・成瀬友梨		15:50～15:55		
駒沢公園の家	今村水紀・篠原勲		15:55～16:00		
市原湖畔美術館	川口有子・鄭仁愉		16:00～16:05		
佐世保の実験住宅 ハウステンボススマートハウス	川添善行		16:05～16:10		竹村優里佳 (立命館大学)
大阪木材仲買会館	白波瀬智幸		16:10～16:15		
SHIRASU	鈴木亜生		16:15～16:20		
麻布十番の集合住宅	栃澤麻利		16:20～16:25		
大阪歯科大学 創立100周年記念館	中川雄輔		16:25～16:30		
等々力の二重円環	藤原徹平		16:30～16:35		
愛知県歯科医師会館	降旗範行		16:35～16:40		
糸満漁民食堂	山崎健太郎		16:40～16:45		
日本工業大学W2 棟	吉村英孝		16:45～16:50		
公文式という建築	米澤隆・野村直毅		16:50～16:55		

2015年学会賞(作品・技術・業績)、教育賞(教育貢献)、作品選奨受賞作品展

9月4日(金)～6日(日)9:30～17:30(最終日は15:30まで、東海大学湘南キャンパス14号館地下1階ホールにて)

	表彰業績	受賞者
●学会賞(作品)	上州富岡駅	武井誠／鍋島千恵
	木の構築 工学院大学弓道場・ボクシング場	福島加津也／富永祥子
●学会賞(技術)	押込み・引抜きに高耐力を有する多段拡径杭工法の開発と適用展開	青木雅路／平井芳雄／若井修一／田村彰男
	600m級タワーの風を主題とした構造設計技術	小西厚夫／中西規夫／江坂佳賢／吉野繁
	皿ばねとブレーキ技術を用いた高性能摩擦ダンパーの開発と展開	佐野剛志／鈴木康正／野村潤／内海良和
	パッシブ切替型オイルダンパーの実用化と都市型小変位免震建物への適用	長島一郎／欄木龍大／青野英志／水谷太朗
●学会賞(業績)	伝統的建物の再生と新たな価値の創造－佐原 町並み再生プロジェクト	郡裕美／遠藤敏也
	「失われた街」模型復元プロジェクト	槻橋修／久野紀光／福屋粧子／清水裕二／ 曾我部昌史／中村勇大／古谷誠章／宗本晋作
	名古屋大学 キャンパスマネジメントによる創造的再生	名古屋大学 施設・環境計画推進室／ 同 工学部施設整備推進室／ 同 大学院環境学研究科 奥宮研究室／ 同 施設管理部
	村野藤吾図面資料アーカイブを用いた一連の展覧会・教育・研究事業	村野藤吾の設計研究会／京都工芸繊維大学美術工 芸資料館
●学会賞(教育貢献)	体験型研修施設による建築技術者の育成および教育関係者・学生への「建築」 研修プログラムの実施	株式会社竹中工務店 竹中技術実務研修センター チーム
	構造技術者を志す学生向けの国際トラスコンテストを通じた継続的教育活動	国際トラスコンテストの会
	シニアボランティアから世代をつなぐ居住文化体験プログラムの実践 －大阪くらしの今昔館の町並み展示を活用したアクティブラーニング	谷直樹／碓田智子／服部麻衣／ 大阪くらしの今昔館町家衆
	ストック型社会におけるリノベーションスクールを通じた人材育成と 地域再生事業	徳田光弘／清水義次／梯輝元／嶋田洋平／ 大島芳彦
●作品選奨	尾鷲市立尾鷲小学校	伊藤恭行／佐々木司／藤尾篤
	共愛学園前橋国際大学4号館 KYOAI COMMONS	乾久美子
	大山の小屋	大角雄三
	猪苗代のギャラリー	柴崎恭秀
	大阪木材仲間会館	白波瀬智幸／興津俊宏
	行橋の住宅	末廣香織／末廣宣子／榊田洋子
	文京区立森鷗外記念館	陶器二三雄
	録museum	中村拓志
	群馬県農業技術センター	日野雅司／栃澤麻利／安原幹
	山鹿市立鹿北小学校	古谷誠章／山室昌敬／稲山正弘／八木佐千子／ 杉下浩平／森田祥子
	八海山雪室	星野時彦
	金沢海みらい図書館	堀場弘／工藤和美／新谷真人／高間三郎

研究集会 研究協議会・研究懇談会・パネルディスカッション

※研協：研究協議会、研懇：研究懇談会、PD：パネルディスカッション

部門	種別	主題	資料	日時	会場	概要
材料施工	研協	標準仕様書（JASS）・指針類のあり方	あり	9月5日（土） 14:15～17:30	11号館11-206室	p.21
	PD	パワーアシストスーツは建設作業の作業員不足時代の救世主になるのか？	あり	9月5日（土） 9:30～13:00	11号館11-206室	p.21
構造	PD（応用力学）	「最適設計」の過去・現在・未来	あり	9月5日（土） 9:30～13:00	11号館11-402室	p.22
	PD（荷重）	建築物の津波荷重に関する新たな研究の方向性を探る	あり	9月4日（金） 9:45～13:00	11号館11-402室	p.22
	PD（基礎構造）	大地震における地盤と基礎構造の諸問題と耐震設計	あり	9月5日（土） 9:30～13:00	11号館11-401室	p.23
	PD（鋼構造）	巨大海溝型地震・内陸地震に対する鋼構造の取り組み	あり	9月6日（日） 9:45～13:00	11号館11-402室	p.23
	PD（RC構造）	RC構造設計の現状と課題 —阪神・淡路大震災から20年の歩み	あり	9月5日（土） 14:00～17:30	11号館11-402室	p.24
	PD（PC構造）	プレストレストコンクリートの今後の新しい可能性を探る	あり	9月6日（日） 9:30～13:00	11号館11-206室	p.24
	PD（SCCS）	合成構造の国際化に向けて	あり	9月4日（金） 14:00～17:30	11号館11-402室	p.25
	PD（シェル・空間構造）	空間構造の設計・解析・施工の最近の発展	あり	9月4日（金） 14:15～17:30	11号館11-401室	p.25
	PD（振動）	大振幅予測地震動を耐震設計にどう取り込むか	あり	9月5日（土） 14:30～17:30	11号館11-401室	p.26
防火	研協	これからの＜建築・都市・環境＞に対応した新たな区画設計を考える	あり	9月5日（土） 14:00～17:30	2号館2E-102室	p.26
環境工学	研協	アジア蒸暑地域に映る環境工学の未来	あり	9月5日（土） 15:00～17:30	14号館14-202室	p.27
	研懇	今後の環境工学を担う若手研究者 —私の研究スタイル Part II	あり	9月4日（金） 14:00～17:30	2号館2E-102室	p.27
建築計画	研協	建築におけるユニバーサルデザインの到達点と展望 —建築において多様な人間をどのように捉えるか	あり	9月5日（土） 14:00～17:30	2号館2N-101室	p.28
	PD	iBE論 —ビルディングエレメントと構法の過去・現在・未来	あり	9月4日（金） 14:00～17:30	2号館2E-101室	p.28
農村計画	研協	災害としなやかに付き合う知恵 —集落計画にどう活かすか	あり	9月5日（土） 14:15～17:30	1号館1B-305室	p.29
	PD	農山漁村の持続力を支える地域組織とは	あり	9月4日（金） 14:00～17:30	1号館1B-205室	p.29
都市計画	研協	時空間的不確実性を包含する都市のプランニング	あり	9月5日（土） 9:45～13:00	2号館2E-101室	p.30
	研懇	都市縮小時代の土地利用計画の最前線 —リバーススプロールの実態と土地利用計画にできること	あり	9月6日（日） 9:30～13:00	2号館2E-101室	p.30
	PD	地域創生を支える大学キャンパスのリ・デザイン	あり	9月4日（金） 9:45～13:00	2号館2E-101室	p.31
建築社会システム	研協	空き家をリ・デザインする	あり	9月4日（金） 14:30～17:30	松前記念館講堂	p.31
	PD	公共施設マネジメントの担い手	あり	9月5日（土） 14:00～17:30	1号館1B-306室	p.32
建築歴史・意匠	研協	日本の戦後建築への新たな評価軸 —主に「技術」の視点から	あり	9月5日（土） 9:45～13:00	2号館2E-102室	p.32
	PD	もう一つの「民家」の系譜 —付属屋と小屋	あり	9月6日（日） 9:30～13:00	2号館2E-102室	p.33
海洋建築	研協	事例を通して海洋建築の計画・設計の特徴を考える	あり	9月6日（日） 9:30～13:00	14号館14-204室	p.33
情報システム技術	研協	地域の「レジリエンス」向上へとつなぐ地域空間情報の応用と展開	あり	9月5日（土） 14:00～17:30	14号館14-204室	p.34
教育	研懇	建築教育におけるワークショップの方法論とその意義	なし	9月5日（土） 9:30～13:00	14号館14-204室	p.34
建築法制	研協	社会変化に対応しうる用途規制再構築の方向性 —日本型条件付用途許可制度の可能性	あり	9月4日（金） 14:00～17:30	11号館11-206室	p.35

部門	種別	主題	資料	日時	会場	概要
地球環境	PD (1)	[午前の部：総論] 都市・建築分野におけるこれからの地球環境対策 —パリ合意に向けて	あり (PD (1) (2)共通)	9月6日(日) 9:30～13:00	松前記念館講堂	p.35
	PD (2)	[午後の部：分野別課題各論] 都市・建築分野におけるこれからの地球環境対策 —低炭素な都市・建築をつくる手法と実例	あり (PD (1) (2)共通)	9月6日(日) 14:00～17:30	松前記念館講堂	p.36
倫理	研懇	建築における専門家倫理 —倫理綱領改定と倫理教育の実践	なし	9月4日(金) 14:00～17:30	1号館1B-204室	p.36
特別調査	研協	専門家と一般市民のコミュニケーション体系の構築	あり	9月4日(金) 10:00～13:00	2号館2E-102室	p.37
	PD	気候変化による災害を防止する建築・都市地域のガイドラ インづくりに向けて	あり	9月6日(日) 14:00～17:30	14号館14-202室	p.37

標準仕様書 (JASS)・指針類のあり方

[資料あり]

9月5日 (土) 14:15～17:30 11号館11-206室

司会 本橋健司 (芝浦工業大学)

副司会 興石直幸 (早稲田大学)

記録 佐藤幸恵 (東京都市大学)

1. 主旨説明 野口貴文 (東京大学)

2. 主題解説

①各工事における仕様書・指針類作製の動向

(1) RC 工事運営委員会 兼松 学 (東京理科大学)

(2) 鉄骨工事運営委員会 護 雅典 (竹中工務店)

(3) 防水工事運営委員会 古賀純子 (国土技術政策総合研究所)

(4) 内外装工事運営委員会 永井香織 (日本大学)

(5) 改修工事運営委員会 白井 篤 (東京家政学院大学)

(6) その他の運営委員会 古賀純子 (前掲)

②仕様書・指針類の方向性 眞方山美穂 (国土技術政策総合研究所)

3. 討論

4. まとめ 早川光敬 (東京工芸大学)

日本建築学会・標準仕様書 (JASS) は、1953 年に JASS 1 (一般共通事項) が制定され、現在、JASS 27 (乾式工事) まで発刊されており、技術の進歩に合わせて約 10～15 年周期で改定されてきた。

2001 年 4 月に「学会標準・仕様書のあり方検討委員会」のまとめた報告書 (答申) では、標準仕様書は、種々団体の作成する共通仕様書の原器モデルの性格を有し、必要性能項目と目標レベルの設定方法、使用材料の選択方法、製造・工事の方法、管理検査方法などの標準を示すものと位置づけられた。一方、指針類は、新技術の紹介や解説文の補完を目的とするものと位置づけられた。これを受けて材料施工委員会では、2001 年 11 月に「建築工事標準仕様書制定の趣旨と執筆方針」を定めるとともに、2002 年 3 月に開催されたワークショップにおいて「JASS 執筆要領案」および「JASS の査読要領案」が示された。それ以降、材料施工委員会傘下の各小委員会では、これらの方針や要領案に則って JASS の改定がなされることとなった。

現在、各小委員会において、JASS および指針類の改定が継続的に行われてきている。しかしながら、実務支援文書の制定方針が示されてからすでに 10 年以上が経過し、すべての JASS・指針類において、この方針が踏襲され実行されているとは言い切れず、工事の種類ごとに実務支援文書の執筆方法やヒエラルキーが異なっているのが現状である。そこで、本研究協議会では、JASS・指針類のあり方に対する材料施工委員会内での再統一を図ることを目的として、各運営委員会で制定している標準仕様書・指針類の目的と役割、法規や公共工事標準仕様書との関係について調査を行った結果を報告する。さらに国際基準・規格類の引用方針や JASS 1 との関係、特記の記載方法などの調査結果を踏まえ、日本建築学会の刊行物としての位置づけ、法規との関係などを含めた仕様書・指針類のあり方について議論する。

パワーアシストスーツは建設作業の作業員不足時代の救世主になるのか?

[資料あり]

9月5日 (土) 9:30～13:00 11号館11-206室

司会 三輪明広 (戸田建設)

副司会 蔡 成浩 (鹿島建設)

記録 中村 聡 (東急建設)

1. 主旨説明 星野春夫 (竹中工務店)

2. 主題解説

①自動化のニーズとパワーアシストスーツの役割

井上文宏 (湘南工科大学)

②自動化・ロボット化技術に関する国の取り組み

眞方山美穂 (国土技術政策総合研究所)

③パワースーツの研究開発の現状

新井健生 (大阪大学)

④実用化に向けた課題 (普及展開における現状と課題)

藤本弘道 (アクティブリンク)

林 正彦 (クボタ)

⑤建設会社における開発の現状

上田尚輝 (大林組)

永田幸平 (竹中工務店)

3. 討論と実演

4. まとめ 蔡 成浩 (前掲)

近年、建築現場ではオリンピック・パラリンピックなどによる建設需要の増加が予測されるなか、労働力不足や作業員の高齢化が大きな問題になっている。ロボット化や自動化などの技術は、このような建設業の労働力問題を解決する手段の一つとして期待されている。その中でもパワーアシストスーツは、作業員が装着することで、筋力の強化、疲労の軽減、怪我の防止などを可能とする装置として注目を集めており、介護や物流を中心として急速に開発が進んでいる。

本パネルディスカッションは建築現場へのパワーアシストスーツの適用課題、およびその活用に向けて議論することで、労働力問題を解決する一つ的手段として、その技術開発の方向性を再認識することを目的とする。

主題解説では、まず総論として自動化のニーズとパワーアシストスーツが担うべき役割を述べる。次に自動化を社会的ニーズとして、国がどのような取り組みを行っているかを紹介する。その後、基礎研究や実用化に向けた商品開発の現状について、研究開発者が説明を行う。最後に、建設会社におけるパワーアシストスーツの使用状況、認識度や期待に関するアンケートの分析結果について説明する。

討論と実演では、主題解説者、使用者と開発者がお互いの意見を話し合うことで、建築作業用のパワーアシストスーツ開発の方向性を示す。なお、開発現状として複数のパワーアシストスーツの実演を予定しており、建設作業への適用可能性を確認できる機会を設けている。

構造部門(応用力学)——パネルディスカッション

「最適設計」の過去・現在・未来

〔資料あり〕

9月5日（土） 9:30～13:00 11号館11-402室

司会 堤 和敏（芝浦工業大学）
副司会 小野聡子（有明工業高等専門学校）
記録 加藤準治（東北大学）

1. 主旨説明 高田豊文（滋賀県立大学）
2. 主題解説
①最適化の歴史と発展 大崎 純（京都大学）
②最適化の構造設計への応用 澤田樹一郎（鹿児島大学）
③最適化の部品設計への応用 山川 誠（東京電機大学）
④最適化の形態創生への応用 本間俊雄（鹿児島大学）
⑤最適化の未来への可能性 高田豊文（前掲）
3. 討論
4. まとめ 藤井大地（近畿大学）

実務の構造設計では、まず部材断面や部材配置を仮定し、設計条件に適合するようにこれらを変更する方法が一般的である。設計条件を満たさない場合の仮定断面などの変更作業は、設計者の専門的知識をもとに試行錯誤的に行われるため、設計結果としての建物の性能は設計者の能力に大きく左右される。そこで構造設計を、必要な条件を満足したうえで材料費の最小化や構造性能の最大化などを目的とした最適化問題として取り扱い、様々な最適化手法を駆使して数理的に設計解を得ようとする「最適設計」の考え方が登場した。最適化理論を構造物の設計や解析に応用する最適設計・構造最適化の研究は、国内外で数多く発表されてきたが、かつては、最適化技術が実際の建築構造設計に用いられた例はわずかであったため、「最適設計は実務の建築構造設計に使えるのか？」と、最適設計に対して懐疑的な目を向けられることもあった。

しかし近年、最適設計の考え方は、「構造形態創生」「アルゴリズムック・デザイン」といった構造物の形態を創り出すための理論・技術に継承され、さらに 3D プリンタやデジタル・ファブリケーションの普及拡大と相まって、力学理論を基礎とした構造表現・形態の実現に大きく貢献している。このように、最適設計・構造最適化の理論を背景としたものづくりに関する研究は、現在、大きな転機を迎えていると言える。

本パネルディスカッションでは、最適設計や構造最適化に関する歴史と発展を概観し、構造設計や部品設計への応用研究を解説するとともに、最適化技術を実務で用いることの困難な理由とそれを克服するための研究成果を、具体的な解析例を用いて示す。現在、どのような構造設計問題が、どのような最適化手法で解けるのかといった具体例を示すことによって、最適化技術を実務設計に適用するうえでの課題と、今後の活動の方向性について議論したい。

構造部門(荷重)——パネルディスカッション

建築物の津波荷重に関する新たな研究の方向性を探る

〔資料あり〕

9月4日（金） 9:45～13:00 11号館11-402室

司会 石原 直（建築研究所）
副司会 館野公一（鹿島建設）
記録 西嶋一欽（京都大学）

1. 主旨説明 奥田泰雄（国土技術政策総合研究所）
2. 主題解説
①建築物の津波荷重指針の概要 壁谷澤寿一（国土技術政策総合研究所）
②対津波設計か耐津波設計か——提言部会と海洋建築委員会からの報告 濱本卓司（東京都市大学）
③防護施設に作用する津波荷重と被災メカニズム 有川太郎（中央大学）
④土木構造物（橋梁構造物）に作用する津波荷重 庄司 学（筑波大学）
⑤構造物周りの洗掘現象への津波数値解析技術の適用 玉田 崇（いであ）
⑥ RC 造建築物に作用する津波荷重と海岸植生の影響 松富英夫（秋田大学）
⑦数値流体解析による建築物の津波荷重の計算 長谷部雅伸（清水建設）
⑧外装材の脱落を考慮した耐津波設計 都祭弘幸（福山大学）
3. 討論
4. まとめ 奥田泰雄（前掲）

東日本大震災から 4 年が経過した。この間に、本会では荷重運営委員会に津波荷重ワーキンググループ（2014 年に津波荷重小委員会に変更）を設置し、2015 年の『建築物荷重指針・同解説』の改定に合わせて、建築物の津波荷重指針をまとめた。この指針は、津波避難ビルに限定せず、津波浸水想定区域に建設する建築物や工作物に作用する津波荷重をより合理的に決定することを目的として策定した。さらに、現在は『建築物荷重指針を活かす設計資料（2016 年発行予定）』に津波荷重に関する設計資料をまとめている。本資料では、津波荷重や津波波力に関する解説、過去の津波の事例、津波荷重算定例、津波荷重の数値シミュレーション、用語など、『建築物荷重指針・同解説』で書ききれなかった事項も含めて、設計者に参考となる情報の提供を目的としてまとめられた。

一方、東日本大震災後、建築・土木分野では建築物や構造物の津波荷重に関して新たな研究も開始され、新たな知見が蓄積されている。

そこで本パネルディスカッションでは、建築物の津波荷重指針や建築・土木分野での津波荷重に関する最新の研究事例について話題提供するとともに、10 年後の『建築物荷重指針・同解説』の改定に向けて、建築物の津波荷重に関する研究の新たな方向性について議論したい。

大地震における地盤と基礎構造の諸問題と耐震設計

[資料あり]

9月5日(土) 9:30~13:00 11号館11-401室

司会 時松孝次(東京工業大学)

副司会 金子 治(戸田建設)

記録 三辻和弥(山形大学)

基調講演 東北地方太平洋沖地震による杭被害のメカニズム
中井正一(千葉大学)

1. 主旨説明 田村修次(東京工業大学)

2. 主題解説

①基礎の耐震設計における地震外力

新井 洋(国土技術政策総合研究所)

②直接基礎の耐震設計

眞野英之(清水建設)

③杭基礎の耐震設計

田村修次(前掲)

④パイルド・ラフト基礎の耐震設計

濱田純次(竹中工務店)

⑤異種基礎の耐震設計

佐原 守(大林組)

⑥液状化地盤における基礎の耐震設計

鈴木康嗣(鹿島建設)

3. 討論

4. まとめ 安達俊夫(日本大学)

近年、南海トラフの巨大地震や首都直下地震など大地震の発生リスクが極めて高いと指摘されている。一般的な基礎構造では中地震に対する1次設計のみが行われているが、こうした巨大地震への備えとして、基礎構造でも2次設計法の確立は必要と考えられる。ただし、大地震時における基礎構造の沈下・傾斜は、基礎構造体のみならず、自然の産物である地盤の非線形性や不確実性の影響を受ける。そのため、基礎構造の2次設計導入には多くの解決すべき課題がある。本パネルディスカッションでは、中小地震と大地震で地盤や基礎構造の挙動において何が異なるのか、設計に取り込むうえでどのような問題があるか議論を行う。まず、千葉大学の中井正一教授に、東北地方太平洋沖地震による杭被害について、基調講演を行っていただく。引き続き、①基礎の耐震設計における地震外力(地盤応答、建物慣性力、地盤と建物の動的相互作用)、②直接基礎における大地震時の支持力や滑動等の問題、③杭基礎における応答変位法や群杭効果および杭体非線形性等の問題、④パイルド・ラフト基礎の地震時挙動(杭応力、滑動、地盤変形)の問題、⑤杭基礎と直接基礎からなる異種基礎におけるねじれ挙動等の問題、⑥液状化が想定される地盤における直接基礎や杭基礎の耐震設計の問題について6名のパネリストに解説していただく。討論では、以上の個別解説を踏まえたうえで、基礎構造の2次設計に向けて解決すべき課題や問題点について、フロアからの参加も交えて議論する。

巨大海溝型地震・内陸地震に対する鋼構造の取り組み

[資料あり]

9月6日(日) 9:45~13:00 11号館11-402室

司会 井戸田秀樹(名古屋工業大学)

副司会 宇佐美徹(竹中工務店)

記録 髙裕裕治(京都大学)

1. 主旨説明 吹田啓一郎(京都大学)

2. 主題解説

①JSCA性能メニューに基づく長周期地震動に対する耐震性能評価と設計
北村春幸(東京理科大学)

②初期超高層建物の実大低層部振動台実験による梁端接合部破断とその補強
長江拓也(名古屋大学)

③多数回繰返し載荷を受ける梁端部の塑性変形能力と超高層鉄骨造建物の耐震安全性の検証
長谷川隆(建築研究所)・成原弘之(大成建設)

④18層鉄骨造高層建物の南海トラフ予測地震動による振動台実験と解析
鈴木芳隆(小堀鐸二研究所)

⑤関西地区における内陸直下地震に対する取り組みの現状と課題
多賀謙蔵(神戸大学)

⑥上町断層帯地震によるレベル2を超える地震動に対する倒壊限界までの解析・設計法の提案
西村勝尚(大林組)

3. 討論

4. まとめ 多田元英(大阪大学)

日本を取り巻く海溝型地震や内陸直下地震によって生じる地震動は、条件によっては現行の耐震基準を大きく超えるレベルが予測されている。海溝型の大規模地震では長周期成分が卓越すると同時に継続時間が長いことから、高層建物は多数の繰返し塑性変形に対する変形能力が問われている。内陸直下地震では、例えば上町断層帯地震は長周期成分が卓越するパルス性の強い地震動により、高層建物にかなり大きな応答変位が生じるとされている。また、東北地方太平洋沖地震の経験から、地震発生条件の設定では起こりうる最大規模を検討に加えることがある。これらの地震動による大変形の応答や多数の繰返し応答は、現行の耐震設計が前提とする安定した履歴挙動の限界を超えるため、塑性崩壊を終局状態とみなす考え方では安全性を評価することができない。鋼構造の場合は、部材の局部座屈や破断による耐力劣化を伴う挙動を定量的に把握し、大変形領域での $P\Delta$ 効果などを考慮して倒壊限界を明らかにしようとする実験研究、解析研究が進められている。また、設計施工に携わる構造エンジニアの手で新しい設計の枠組みやクライテリアを構築しようとする取り組みが進められている。

本パネルディスカッションは、このような課題に対する建築鋼構造の分野での最近の取り組みを集め、巨大地震による応答に対して鋼構造はいかに対応できるかを最新の研究成果に基づいて議論し、これからの構造設計や研究に資する情報を共有することを目的とする。

RC構造設計の現状と課題
——阪神・淡路大震災から20年の歩み

[資料あり]

9月5日 (土) 14:00～17:30 11号館11-402室

司会 前田匡樹 (東北大学)
副司会 河野 進 (東京工業大学)
記録 小室 努 (大成建設)

- 1. 主旨説明 和泉信之 (千葉大学)
- 2. 主題解説

- ① 1995 兵庫県南部地震の被害の概要
壁谷澤寿海 (東京大学)
- ② RC 建物の被災要因 塩原 等 (東京大学)
- ③ 層崩壊の被害と研究 勅使川原正臣 (名古屋大学)
- ④ 柱梁接合部の被害と研究 北山和宏 (首都大学東京)
- ⑤ 二次壁 (構造部材・非構造部材) の被害と研究
加藤大介 (新潟大学)
- ⑥ 大型耐震実験施設の活用成果
松森泰造 (防災科学技術研究所)
- ⑦ 品確法と耐震改修促進法 福山 洋 (国土技術政策総合研究所)

3. 討論

- ① 構造設計の現状と課題
- ② 耐震改修の現状と課題
- ③ 性能設計の現状と課題

4. まとめ 倉本 洋 (大阪大学)

阪神・淡路大震災からちょうど 20 年が経過した。社会は以前より安全になったのであろうか。鉄筋コンクリート造建物の被害は比較的小さいものとされたが、そこで被害要因とされた技術的な課題は、その後の研究や指針改定に大きな影響を及ぼしている一方、未だに解決されていない課題もある。阪神・淡路大震災を契機として導入された E-Defense などの大型耐震実験施設は、科学的な新しい知見が得られることが期待され、その成果が得られ始めている。また、品確法の導入は新築建物の性能設計の進展を促した。また、耐震改修促進法は既存建物の新しい耐震改修技術の展開を促すこととなった。

本パネルディスカッションでは、この 20 年間の RC 構造設計に関する学会規準等の歩み、新しい研究の進展、技術開発の動向、法規定等への反映を振り返り、実務設計の現状をふまえて、今後 RC 構造設計が進展するために必要な設計・研究面の課題を探る。

プレストレストコンクリートの
今後の新しい可能性を探る

[資料あり]

9月6日 (日) 9:30～13:00 11号館11-206室

司会 菅田昌宏 (竹中工務店)
副司会 谷 昌典 (京都大学)
記録 坂下雅信 (建築研究所)

- 1. 主旨説明 深井 悟 (日建設計)
- 2. 主題解説

- ① アンボンド PC 丸田 誠 (島根大学)
- ② 海外での取り組み 河野 進 (東京工業大学)
- ③ 歴史的建造物の再生 角 彰 (日本建築総合試験所)
- ④ 補修・補強 岸本一蔵 (近畿大学)
- ⑤ 事例紹介 (1): 風力発電タワー 太田義弘 (竹中工務店)
- ⑥ 事例紹介 (2): 意匠性の高い PC 福井 剛 (日本大学)
- ⑦ 事例紹介 (3): 特殊形状の PC 加藤誠一 (オリエンタル白石)
- ⑧ 事例紹介 (4): 特殊材料を用いた PC
坂田博史 (建研)

3. 討論

4. まとめ 阿波野昌幸 (近畿大学)

プレストレストコンクリート (PC) の今後の新しい可能性を考えるために、コンクリートにこだわらず、特徴的なプレストレスの使い方、考え方、事例等について主題解説を行い、新しい PC の可能性について議論する。主題解説の主な概要を以下に示す。

① アンボンド PC では、アンボンド PC の特徴、ボンド PC との違い、アンボンド PC の最新の研究成果、アンボンド PC 建物の試設計等について紹介する。

② 海外での取り組みでは、PC 技術を地震時の損傷制御に積極的に用いる取り組みを、90 年代 PRESSS プロジェクトから順次紹介する。最近では、コンクリート造のみならず、鉄骨造や木造にも PC 技術を応用して「セルフセンターリング」を実現する研究などがあり、こうした技術を応用した実構造物について紹介する。

③ 歴史的建築物の再生では、プレストレスを利用したコンクリートシェルを屋根に用いた体育館の再生の取り組みについて紹介する。

④ 補修・補強では、外付けプレキャスト PC フレーム工法、免震改修におけるプレストレスによる部材補強、煉瓦壁へのプレストレス導入による補強等について紹介する。

⑤～⑧ 実例紹介では、(1) 鋼繊維超高強度コンクリートを用いた無筋プレキャスト部材を螺旋に配置した PC 鋼材により一体化する工法の風力発電タワー、(2) プレキャスト PC 工法を用いた細幅梁のフレーム構造による意匠性の高い体育館、(3) S 字や局面系等の特殊な形状をした PC 建物、(4) 炭素繊維等の特殊材料を用いた PC 構造物、などの特徴のある事例について紹介する。

合成構造の国際化に向けて

[資料あり]

9月4日(金) 14:00~17:30 11号館11-402室

司会 福元敏之(鹿島建設)
副司会 鈴木英之(安藤ハザマ)
記録 松尾真太郎(九州大学)

1. 主旨説明 倉本 洋(大阪大学)

2. 主題解説

①海外の合成構造規準

- a) 海外規準の現状 福田孝晴(鹿島建設)
b) 海外の設計・施工事例——シンガポールにおけるハイブリッド構造の設計と施工 伊藤栄俊(竹中工務店)

②国内と海外の合成構造設計法の比較

- a) 合成柱 藤永 隆(神戸大学)
b) ずれ止め 田中照久(福岡大学)
c) 合成梁・合成床 城戸將江(北九州市立大学)
d) 壁・ブレース・接合部 北野敦則(前橋工科大学)

③合成構造の国際展開——インドネシアにおける国際展開

永田匡宏(日本鋼構造協会)

3. 討論

4. まとめ 藤本利昭(日本大学)

合成構造は、鉄骨鉄筋コンクリート(以下、SRC)構造を中心に発展してきた。そのことから本会における合成構造に関する設計規準・指針類も、『鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説』(以下、SRC 規準)を核として、新たな合成構造に対しては、SRC 規準を補完する形で規準・指針類が作成されている。このように国内での合成構造に関する規準・指針類は、社会のニーズに対応する形で刊行されてきている。一方、海外に目を向けると、欧州においてはユーロ圏内における共通技術規準としてユーロコードの発行に代表される国際化が進んでおり、新興国においても国際規準として米国や欧州の規準を取り入れるなど、世界的な国際化が進んでいる。

このような背景から、鋼コンクリート合成構造(SCCS)運営委員会では、今後国際標準規格として評価される規準が必要と考え、2011年12月より「合成構造の国際標準化検討WG」を、さらに2013年4月より「合成構造規準国際標準化検討小委員会」を設置し、今後の規準作成に向けた海外の情報収集ならびに資料作成を行ってきた。

本パネルディスカッションでは、小委員会での活動成果として海外規準の現状と各国規準ならびに国内規準の関係について報告するとともに、海外における設計・施工事例や国際展開の取り組みを紹介することにより、本会における今後の合成構造の将来展望を、聴講者である研究者・実務者の方々とともに意見交換できることを期待している。

空間構造の設計・解析・施工の最近の発展

[資料あり]

9月4日(金) 14:15~17:30 11号館11-401室

司会 谷口与史也(大阪市立大学)
副司会 立道郁生(明星大学)
記録 浜田英明(法政大学)

1. 主旨説明 竹内 徹(東京工業大学)

2. 主題解説

- ①構造設計法 佐々木睦朗(法政大学)
②解析法 元結正次郎(東京工業大学)
③材料 河端昌也(横浜国立大学)
④施工法・構法 細澤 治(大成建設)

3. 討論 モデレーター：立道郁生(前掲)

4. まとめ 大崎 純(京都大学)

外力に対して面内力や軸力で抵抗するシェル構造や張力構造は、大空間を覆うための理想的な構造形態であり、古くから、球形シェルやHP シェルといった解析曲面を用いた形態が利用されてきた。20世紀前半になると、解析曲面とは異なり、数式で表現できない曲面を有するいわゆる自由曲面シェルが建設されるようになってきたが、最近になって、設計法、解析法、材料、施工法等の進化により、大規模かつ複雑な、さまざまな形態のシェル構造や空間骨組構造の建設が容易になった。

1990年代から構造形態のモデル化と設計において用いられているパラメトリック曲面、構造最適化、3次元CADなどの設計技術に加えて、詳細な有限要素解析や数値風洞実験の普及は、複雑な形状の空間構造物の全体あるいは部材・接合部の安全性、信頼性の向上に貢献している。さらに、膜材料や複合材料などの多機能化に加えて、施工時シミュレーションや、BIMの利用によって、空間構造の大規模化、複雑化、工期短縮、低コスト化が可能となった。

一方、上記のような発展にともなって、建築景観・環境問題や構造合理性とコンフリクトを生じるような規模や形態を有する施設を提案・設計できることに対する議論等、多くの問題点が2020年の東京オリンピックとも関連して顕在化している。また、東日本大震災以降、構造性能の向上だけでなく、非構造材の安全性が大きな問題として認識されるようになった。我々が得ることができた技術が、現在のみならず、50年後あるいは100年後の社会基盤構造物の建設のために貢献するよう、いま一度十分な議論が必要と考える。

本パネルディスカッションでは、まず空間構造の設計、解析、材料、施工の各分野における最先端の技術を概観する。討論では、これらの技術発展の功罪について議論し、構造物単体ではなく、社会基盤としての空間構造物を、都市景観とともに将来の世代に継承していくため、空間構造の今後の発展の方向を展望する。

大振幅予測地震動を耐震設計にどう取り込むか

[資料あり]

9月5日 (土) 14:30～17:30 11号館11-401室

司会 壇 一男 (清水建設)
副司会 石原 直 (建築研究所)
記録 土肥 博 (NTT ファシリティーズ)

1. 主旨説明 宮本裕司 (大阪大学)

2. 主題解説

- ①大振幅予測地震動の現状と課題 石井 透 (清水建設)
- ②大振幅地震動に対する高層建物の地震応答解析の現状と課題 鈴木芳隆 (小堀鐸二研究所)
- ③上町断層の地震への対応事例 林 康裕 (京都大学)
- ④南海トラフの地震への対応事例 西澤崇雄 (日建設計)

3. 討論

4. まとめ 土方勝一郎 (芝浦工業大学)

1995年に起こった阪神・淡路大震災では、1981年に施行された新耐震設計法による建物の被害は比較的少なかったものの、旧設計法の建物の被害が甚大で震度7の震災の帯を形成した。研究の結果、震災の帯の原因が設計で想定している地震動よりも強いキラーパルスであったこと、キラーパルスは断層面上のアスペリティで生成されることがわかった。この研究成果をうけて、日本中の主な活断層による強震動が予測されている。

一方、2011年に起こった東日本大震災では、津波による被害は甚大であったが、地震動による建物の被害は比較的少なかった。しかし、この地震は、従来考えられていたマグニチュード8クラスの巨大地震の震源域をいくつも連動破壊させて起こったマグニチュード9.0の地震であった。これをうけて、日本列島の下に沈み込むプレートの境界面でマグニチュード9クラスの地震を想定して、従来の設計で想定している値よりも大きな地震動や津波が予測されることが多くなっている。

このような背景をうけて、本パネルディスカッションでは、はじめに、最近の大振幅の予測地震動の特徴を整理する。また、従来の設計で想定している値よりも大きな入力地震動に対してどこまで建物の応答解析ができるかについて、現在の状況と課題を紹介する。

ついで、大阪市直下を通る上町断層を例にとり、キラーパルスの予測のみならず、キラーパルスの特徴の分類やそれに対する建物の設計法の検討結果を紹介する。

また、南海トラフで想定されるマグニチュード9クラスの巨大地震についても、名古屋地区における予測地震動と地盤や建物の応答解析結果、およびそれに基づく耐震安全性の確保技術について紹介する。

討論においては、免震建物や制振建物に関する最新の知見も交えながら、本会として、従来の設計で想定している値よりも大きな振幅の予測地震動を、どのような形で設計体系に組み込んでいけるかについて議論したい。

これからの<建築・都市・環境>に対応した新たな区画設計を考える

[資料あり]

9月5日 (土) 14:00～17:30 2号館2E-102室

司会 大宮喜文 (東京理科大学)
副司会 野竹宏彰 (清水建設)
記録 城 明秀 (竹中工務店)

1. 主旨説明 大宮喜文 (前掲)

2. 主題解説

- ①都市・環境とコンパートメント
——グリーンビルディングを対象として 鍵屋浩司 (建築研究所)
- ②複雑化とコンパートメント——建物の連結に焦点を当てて 山口純一 (大林組)
- ③大空間化とコンパートメント
——区画概念の希薄化にどう向き合うか 鈴木圭一 (清水建設)
- ④複合災害とコンパートメント——地震後の建物の火災安全を例に 鈴木淳一 (国土技術政策総合研究所)
- ⑤コンパートメントの具体例から——あべのハルカスの防災計画 竹市尚広・合田 靖 (竹中工務店)

3. 討論 司会：野竹宏彰 (前掲)

4. まとめ 山田常圭 (消防研究センター)

「空間内を、防火上いかに区切るか？」という問いは、建物の区画化、分節化、ブロック化等とも関連し、火災安全設計のコンセプトや基本方針と表裏一体をなすものである。また一方で、性能的な火災安全設計において、区画 (コンパートメント) の設定は、火煙の拡大範囲等を設定する際の前提条件にもなり、評価・検証を行ううえで根幹に位置づけられるべきものである。

こうした中、近年のグリーンビルディングの普及、中心市街地における地下空間等を介した建物の連結等によるさらなる大規模化、また、東日本大震災を契機に惹起された複合災害への懸念等の実建物の趨勢を見ると、これまでの「区画」の前提条件を再考せざるを得ないような状況が現出しつつあるのではないかと懸念される。実建物に対する社会のニーズが大きく変わりつつある今日、火災安全設計上も、単に法令適合だけを考えた受け身のスタンスでは、対処しきれない状況に直面しつつあるともいえる。

上記のような問題意識を背景に、本研究協議会は、新しい建築・都市 (建築物群)・環境のために、法令等の既存の枠組みを超えて、原点に立ち戻り、「いかに区画 (コンパートメント) するか？」をより主体的・積極的に考える契機としたい。このため、5つの観点からの主題解説とその後の討論を通じて、区画化に関連する到達点・展望・課題を再整理する。

アジア蒸暑地域に映る 環境工学の未来

[資料あり]

9月5日（土） 15:00～17:30 14号館14-202室

司会 岩田利枝（東海大学）
副司会 田中稲子（横浜国立大学）
記録 川久保俊（法政大学）

1. 主旨説明 高口洋人（早稲田大学）

2. 主題解説

① 気候変動が建築環境に及ぼす影響

大岡龍三（東京大学）

② 建築・都市の総合環境性能評価手法のアジア展開

伊香賀俊治（慶應義塾大学）

③ 東南アジアの大規模建築における温熱環境とエネルギー消費実態

一ノ瀬雅之（首都大学東京）

④ アジア地域の適応的快適性と環境調整行動

リジャル H.B.（東京都市大学）

⑤ 蒸暑地域での環境建築への取り組み

川島克也（日建設計）

3. 討論 コーディネーター：高口洋人（前掲）

4. まとめ 羽山広文（北海道大学）

目覚ましい経済成長を続けるアジア諸国では、都市の肥大化とともに、日本が戦後たどった住宅問題、公害問題、エネルギー問題等を一気に抱え、複雑で解決困難な都市環境の課題に直面する地域も少なからず存在する。また、有害廃棄物の越境移動など人為的要因による汚染物質の拡大や、大気汚染や水質汚染の越境移動は発生地域の人々の健康を脅かすだけでなく、近隣地域の人々にも影響を及ぼすことから、日本も含め諸国間の連携による政策的かつ技術的な解決策は喫緊の課題である。

一方、地球温暖化問題においては、「アジア／世界エネルギーアウトLOOK 2013」によれば、世界の二酸化炭素排出量に占めるアジア諸国からの排出割合は 2040 年にはレファレンスケースで約 5 割と予測されることから、環境に配慮した持続可能な社会のあり方を提示することは重要な課題といえる。ここに、日本の建築環境工学分野が技術や人材面で果たす役割は大きいものとする。また、気候変動への適応策を模索する日本にとって、亜熱帯地域や熱帯地域の伝統的な住まいやまち、生活習慣から得られる環境適応技術や手法も多いものと思われる。

以上を踏まえて、今回は特にアジア蒸暑地域の環境に焦点を絞り、建築環境工学や建築設計の各視点から現状を踏まえた課題出しを行いながら、アジア蒸暑地域における持続可能な都市や地域を目指すうえで建築環境工学が果たす役割と、それらの諸地域から読み取れる日本の将来像や課題について多様な視点から討議する場としたい。

今後の環境工学を担う 若手研究者

——私の研究スタイル Part II

[資料あり]

9月4日（金） 14:00～17:30 2号館2E-102室

司会 岩田利枝（東海大学）
副司会 甲谷寿史（大阪大学）
記録 菊田弘輝（北海道大学）

1. 主旨説明 羽山広文（北海道大学）

2. 主題解説

① 2012 年受賞

竹村明久（摂南大学）

② “

細淵勇人（秋田県立大学）

③ “

円井基史（金沢工業大学）

④ 2013 年受賞

LIM EUNSU（東洋大学）

⑤ “

後藤大輔（東京消防庁）

⑥ “

平栗靖浩（徳山工業高等専門学校）

⑦ 2014 年受賞

池谷直樹（九州大学）

⑧ “

庄司 研（大成建設）

⑨ “

山口容平（大阪大学）

3. 討論

4. まとめ 羽山広文（前掲）

少子高齢化が加速されている今日、これまで各分野で中心的に活躍していた世代が退職期を迎え、その担い手の交代も進んでいる一方で、会員増強を図るとともに、研究分野のすそ野を広め、新分野への発展が期待されている。

過去の常識や実績を覆す画期的な成果は、多くの実績と経験を積んだ熟年の研究者による成果ではなく、常識に染まらない柔軟な発想と信念を貫く強靱な忍耐力を備えた若手研究者から生まれてくる。

本会では若手研究者を対象に奨励賞が設けられている。この賞は、「近年中に発表された独創性・萌芽性・将来性のある建築に関する優れた論文等の業績を対象とする」とし、応募に際し 40 歳未満という年齢制限が設けられている。いわゆる、若手研究者の登竜門として位置づけられている。1989 年から開始され、これまでに環境工学分野で 70 名を超える受賞があり、その後 18 名が日本建築学会賞（論文）を受賞している。

本タイトルでの研究懇談会は、昨年に引続き 2 回目である。大学院学生を中心に研究活動に従事している若手研究者らを対象に、顕著な成果を修めこの奨励賞を受賞した先輩研究者から、研究の概要だけでなく、着眼点、成果のまとめ方、その後の発展性など、研究のスタイルやプロセスを紹介いただき、今後の環境工学の発展を支える優れた人材の育成について議論する。

建築における ユニバーサルデザインの 到達点と展望

——建築において多様な人間をどのように捉えるか

[資料あり]

9月5日（土） 14:00～17:30 2号館2N-101室

司会 田中直人（島根大学）
副司会 佐野友紀（早稲田大学）
記録 嶋田 拓（明野設備研究所）

1. 主旨説明 田中直人（前掲）

2. 主題解説

① バリアフリー・UD 研究の到達状況

松田雄二（東京大学）

② バリアフリー・UD の整備状況——法的基準の流れ

高橋儀平（東洋大学）

③ 設計者の立場から——デザイン事例から考える

仙田 満（環境デザイン研究所）

④ 利用者ニーズの立場から——パラリンピックアスリートの発言

（1）視覚障害者の立場から 初瀬勇輔（ユニバーサルスタイル）

（2）車いす使用者の立場から 加藤作子（兵庫脊髄損傷者協会）

3. 討論

4. まとめ 日色真帆（東洋大学）

今日、建築計画の分野では多くの研究分野において、多様な研究テーマで研究活動が展開している。その中でも、これまでの建築に関わる人間に焦点を当て、物理面や心理面など多角的な検討に取り組んできた建築人間工学の研究分野が生まれてから久しい。近年においては、地方自治体における条例の制定などの先行する取り組みを受けて、ハートビル法からバリアフリー新法に至るまでのバリアフリー関連の法基準等の整備とともに、福祉のまちづくりへの関心が高まり、特定の人を考慮するだけでなく、より多くの、できればすべての多様な利用者を考慮したユニバーサルデザインの発展が期待されている。

今回の研究協議会では、建築人間工学における研究状況の経緯をレビューするとともに、建築やまちづくりに関連する法基準の整備の状況、具体的なプロジェクトにおいて取り組まれてきた事例などを紹介する。それにより多様な利用者に適合する建築のあり方として、建築におけるユニバーサルデザインの到達点と課題を整理する。

さらに2020年に開催が決まった東京オリンピック・パラリンピックに向けて、まちづくりとして多様な利用者の人間特性にどのように応えるか、という視点から、パラリンピックアスリートで日常のまちづくり活動やユニバーサルデザインの実現に向けて活動されている当事者の方からの意見や提案をいただきながら、日本のみならず国際的な視点からのユニバーサルデザインのあり方を検討する。

これらの討議から、これからの建築計画分野における研究領域の可能性と課題を会場に参集したメンバーとともに検討し、これからの建築計画学の方角性を確認するものである。

iBE論

——ビルディングエレメントと構法の
過去・現在・未来

[資料あり]

9月4日（金） 14:00～17:30 2号館2E-101室

司会 村上 心（嵯山女学園大学）
副司会 江口 亨（横浜国立大学）
記録 池尻隆史（近畿大学）

1. 主旨説明 角田 誠（首都大学東京）

2. 主題解説

① BE 論の今日的意義——BE 論とは何だったのか

吉田倬郎（工学院大学名誉教授）

② 環境評価における建築情報と部位設計

清家 剛（東京大学）

③ 生産段階における部位／部品概念

片岡 誠（清水建設）

④ 既存住宅の現況把握における構法推定と情報整備

高橋 暁（国土技術政策総合研究所）

⑤ エレメントの計算可能性／不可能性

門脇耕三（明治大学）

3. 討論 コメンテーター：興石直幸（早稲田大学）

松川昌平（慶應義塾大学）

モデレーター：小見康夫（東京都市大学）

4. まとめ 村上 心（前掲）

昨年度の研究協議会「コンピューショナルデザインは構法計画を再定義するか」では、建築生産の様々なフェーズで、従来の建築構法の方法論である様々な「定石」が「プログラム／アルゴリズム」に置き換えられつつある状況が示された。

かつて建築構法学は、「空間」に対してそれを仕切る「ビルディングエレメント（BE）」なる対概念を提示し、建築の様々な性質を「部位・部材」の性質と結びつける媒介役をこれに担わせることにより、構造学・材料学・環境学などの成果を総合し、建築生産と結びつけることを試みた。いわゆる「BE 論」である。ならば今日、プログラム／アルゴリズムが導き出そうとしている対象は「ビルディングエレメント」に近いのではないか。様々な設計・生産情報を「ビルディングエレメント」的なまとまりで再編できるのではないか。構法計画学は再び「ビルディングエレメント」的なものを志向すべきではないか。これが本パネルディスカッションの基本的な問いである。

具体的に言えば、複雑な設計やシミュレーション等で強力な武器となっている BIM は、建築生産のあり方をどう変えようとしているのか、建築性能評価手法は部位設計にどう還元できるのか、構法データベースは既存建築物の維持管理や再生にどう寄与できるのか、これらはかつての「BE 論」の目指したものを実現できたのか否か。建築の ICT 利用に様々な期待と課題が入り混じる中、建築構法学が再び総合の学としての役割を果たす契機となるよう、主題解説者とともに議論したい。

災害としなやかに付き合う知恵 ——集落計画にどう活かすか

[資料あり]

9月5日（土）14:15～17:30 1号館1B-305室

司会 山崎寿一（神戸大学）
副司会 大沼正寛（東北工業大学）
記録 菊池義浩（岩手大学）

1. 主旨説明 後藤隆太郎（佐賀大学）

2. 主題解説

- ①集落復興計画の現状 佐藤栄治（宇都宮大学）
- ②漁村集落の形成と空間システム 岡本哲志（法政大学）
- ③石巻牡鹿の漁師学校と生活空間——集落再生の可能性と課題 貝島桃代（筑波大学）
- ④イエとムラのライフステージと減災の知恵 沼野夏生（東北工業大学名誉教授）

3. 討論 コメンテーター：重村 力（神奈川大学）

4. まとめ 澤田雅浩（長岡造形大学）

今日の災害復旧や防災事業は物的対応や安全性確保に傾注しているが、集落の生業や営みはこれからも持続する。長い時間軸でみると自然災害は繰り返されてきたがゆえに、それぞれの集落には主体的、通時的に培われてきた災害文化、災害としなやかに付き合う知恵といえるものが存在する。それらを集落計画として仕組むことができれば、減災や被災後の回復力、さらには集落の持続性に通じるのではない。

本研究協議会では昨今の復興計画や住宅再建の現況や課題を踏まえつつ、集落の長い時間や本質を見据えるべく、家々や生業・共同空間における災害文化、そこに見いだせる災害としなやかに付き合う知恵を顕在化させたい。具体的には、①集落復興計画の現状と課題として、東日本大震災後に進む集落復興計画の具体的事象から、計画策定やその実施において成し得たこと、加えて残された課題について、また、②漁村集落とは元来どのように形成され、そこに見いだせる空間システムとはいかなるものであるのか、解説をいただく。次いで、③集落の暮らしや生活空間を読み取り、住まいや集落再生に向けた具体的な取り組みや計画、そこでの経験について、さらには④イエとムラのライフステージ（各世代の局面とその連続）と、集落およびその基本単位であるイエにおいて世代を超えて引き継がれてきた減災の知恵について解説をいただく。

討論では以上の主題解説を踏まえ、集落計画の可能性やその限界について議論する。ムラやイエに内在する知恵、災害文化を踏まえた集落の減災のあり方、集落の持続性に向けた集落計画の視点や集落研究の将来展望を導きたい。

農山漁村の持続力を支える 地域組織とは

[資料あり]

9月4日（金）14:00～17:30 1号館1B-205室

司会 斎尾直子（東京工業大学）
副司会 篠部 裕（呉工業高等専門学校）
記録 下田元毅（風土建築設計集団）

1. 主旨説明 熊野 稔（徳山工業高等専門学校）

2. 主題解説

- ①里山を再生する地域組織——神奈川県・平塚市：里山をよみがえらせる会の動向 荒井啓三（里山をよみがえらせる会）
- ②行政から地域組織へのしかけと支援——神奈川県・里地里山事業の事例から 平岡稔幸（神奈川県農地保全課）
- ③東日本大震災後の地域組織の動向——被災自治組織の停滞と再建 鈴木孝男（宮城大学）
- ④東日本大震災後の地域組織の動向——原発事故後の組織形成 川崎興太（福島大学）
- ⑤農山漁村の地域・組織につながるネットワーク論 小林 隆（東海大学）

3. 討論 コメンテーター：三橋伸夫（宇都宮大学）

4. まとめ 吉田 肇（宇都宮共和大学）

過疎化・高齢化に悩む農山漁村では、住民主体の様々な組織が地域運営や課題解決のために重要な役割を果たしている。平成の市町村合併等を契機に行政のスリム化傾向が続く中、これらの地域組織が、本来は必要不可欠となる、地域の特性に応じたきめ細かい公共サービスニーズの請負や、各集落と行政（広域化した自治体等）との中間調整機能を担うなど、「新たな公」あるいは「小さな役場」的役割を担うことも多くなっている。

本パネルディスカッションは、農山漁村地域組織小委員会が主体となり企画した。地域組織の先進事例動向を通して、農山漁村の持続性のありようを探りたい。

まず先進事例動向について、①②は今大会会場である神奈川県の事例として、荒井氏からは集落の里山を再生する地域組織について、平岡氏からはそれらの地域活動を支援する行政サイドの状況について報告いただく。次に③④は、東日本大震災復興の中での事例報告である。被災地域の停滞と再建について宮城県の事例を鈴木氏から、原発事故後の福島県の新たな組織形成の事例を川崎氏から研究報告いただく。これら全国の動向をふまえ、⑤小林氏からは、農山漁村における住民主体の地域組織にとって、今後どのような連携やつながり、活動展開が必要となるか、組織形成論・ネットワーク論として話題提供いただく。

討論では、住民主体の地域組織の効果、連携、底力など、農山漁村の持つ持続力・展開について会場の参加者を交えて幅広く議論する。

時空間的不確実性を包含する都市のプランニング

[資料あり]

9月5日（土）9:45～13:00 2号館2E-101室

司会 姥浦道生（東北大学）
副司会 坂井 文（北海道大学）
記録 山村 崇（早稲田大学）

1. 主旨説明 姥浦道生（前掲）

2. 主題解説

- ①空地等の発生実態と、その動態をふまえた利活用
阪井暖子（東京都）
- ②みどりは駆け込み寺にあらず：コンパクトシティにおける縮退の不確実性とみどり
横張 真（東京大学）
- ③人口減少時代の計画の生態とマスタープラン
饗庭 伸（首都大学東京）
- ④地方都市における実験的再生手法の可能性
——佐賀市わいわい!! コンテナプロジェクトを例として
西村 浩（Workvisions）
- ⑤空き家・空き空間のリノベーションとまちづくり
橘 昌邦（POD）

3. 討論 コメント：高見沢実（横浜国立大学）

4. まとめ 村山顕人（東京大学）

現代の都市、特に大都市郊外部や地方都市は、本格的な人口・世帯減少時代を迎えている。それを主因として、空間的には都市中心部においてもまた郊外部においても、時間的にもまた（ミクロな）空間的にも不規則な形で空き家や空き地が発生してきている。さらには、その再生の取り組みもまた、時空間的にいわば突発的に行われてきている。その意味で、人口減少時代とは、空間利用が時空間的に不確実化・不安定化する時代であるといえよう。

実は、このような不確実な状況は、人口増の時代、すなわち“開発の時代”も同じだった。放っておけば郊外部で無秩序な開発が行われ、さまざまな問題が生じることになる。そこでそのような開発の空間的整序化機能を期待されたのが、ビジョンを描く都市マスタープランであり、それを実現するための各種都市計画規制・事業であった。もちろんこれらがどこまで実際に期待された役割を果たすことができたのかという問題もあるが、しかしさらに明らかなのは、これらのツールが現在の都市計画の直面している時空間的不確実性の問題を解くためには十分ではないということである。

そのような中で、そもそもこの不確実な動きをどうとらえるべきなのだろうか。その動きは地区レベルの空間形成とどのような関係性を有すべきなのだろうか。さらには、マスタープランをはじめとした都市計画は、そこでどのような役割を果たすべきなのだろうか。

本研究協議会においては、それらの点を実態把握、計画論、実践論、主体論の各観点から多角的に論じ、このような不確実性を包含する空間の計画・マネジメントのあり方を示すことを目的とする。

都市縮小時代の土地利用計画の最前線

——リバーススプロールの実態と土地利用計画にできること

[資料あり]

9月6日（日）9:30～13:00 2号館2E-101室

司会 姥浦道生（東北大学）
副司会 岡井有佳（立命館大学）
記録 眞島俊光（日本海コンサルタント）

1. 主旨説明 浅野純一郎（豊橋技術科学大学）

2. 主題解説

- ①都市縮小に向けた土地利用計画と制度の課題
中出文平（長岡技術科学大学）
- ②地方都市が目指すコンパクトシティの実現に向けて
竹田慎一（上越市役所）
- ③郊外居住地におけるリバーススプロールと計画的縮退の可能性
藤田 朗（日建設計総合研究所）
- ④市街化区域内農地の活用と市街地縮小の方法論
柴田 祐（熊本県立大学）
- ⑤農山村集落部での現状からみた土地利用計画の課題
松川寿也（長岡技術科学大学）

3. 討論

4. まとめ 中西正彦（横浜市立大学）

人口減少時代の到来とともに、都市縮小に対する都市計画の方法論の確立が求められている。こうした議論は理論面が先行する形でスマートシュリンク等と称し、すでに2000年代中頃からなされてきたが、近年、空き家や低未利用地の発生が急速に顕在化するに及び、机上の論ではなく、改めて実態を直視し、その課題解決のあり方を議論することが必要と考えられる。また、国においても都市縮小時代の法制度として、立地適正化計画が2014年8月に施行されたところであるが、未だ策定事例はなく、都市縮小の進み方やその程度が多様な地方都市の実態に即して鑑みた場合、計画導入の適否、住民合意形成の難しさ、導入効果等々について、様々な困難が予想される。

そこで、本研究懇談会では、空き家や低未利用地の発生等、物理的な市街地縮小が無秩序に発生する様を「リバーススプロール」と定義し、この発生箇所の実態を踏まえたうえで、土地利用計画の観点からの対応策を展望したい。すなわち、主題解説においては、①現行土地利用計画制度による都市縮小への対応課題を俯瞰した後、②自治体担当者から都市縮小やコンパクトシティの実現への問題点を報告していただく。そのうえで、リバーススプロールが顕著に見られる具体として、③郊外住宅地における実態と課題、④市街地内低未利用地の典型である市街化区域内農地の扱い、⑤農山村集落部における過疎化の実態と土地利用計画の課題を取り上げる。討論では、主題解説者の報告に加え、フロアーからの参加を交えて議論を行い、リバーススプロールの実態を幅広く捉えたうえで、問題点やその解決策をなるべく多く収集し共通認識としたい。

地域創生を支える 大学キャンパスのリ・デザイン

[資料あり]

9月4日（金）9:45～13:00 2号館2E-101室

司会 小松 尚（名古屋大学）
副司会 鶴崎直樹（九州大学）
記録 武田史朗（立命館大学）、佐藤芳治（都市デザインワークス）

1. 主旨説明 斎尾直子（東京工業大学）

2. 主題解説

① Center of Community としての大学キャンパスのありかた
——千葉大学の実践 鈴木雅之（千葉大学）

② 大学キャンパスと地域との連携戦略——立命館大学の実践
建山和由（立命館大学）

③ 大学が地域のアーバンデザインを牽引する可能性——韓国・驪州（よじゅ）
大学の実践 鄭 太景（驪州大学）

④ UDC の活動を通じた公民学連携による地域のデザインとマネジメント
前田英寿（芝浦工業大学）

⑤ 地域創生における大学キャンパスとアーバンデザイン
倉田直道（アーバンハウス都市建築研究所）

3. 討論

4. まとめ 上野 武（千葉大学）

地域再生や地方創生（以下、地域創生）が喫緊の課題となり、多様な主体による取り組みが進められる中、その主体の一つとして地域に立地する大学に期待が寄せられている。これまで大学は、高等教育機関として多くの学生・教職員を擁し、比較的大規模な空間や施設を保有することから、立地する都市や地域に少なからず影響を与えてきた。しかし、工場等制限法の廃止（2002 年）や少子化による学生数の減少は大学の都心回帰を促し、キャンパスの撤退や縮小が地域創生を妨げる例も散見されるようになってきた。このような状況を踏まえ、本パネルディスカッションでは、地域に根ざす大学キャンパスと、その再生デザイン（リ・デザイン）が地域創生を支える新たな拠点・手法となり得るのか、その可能性について討論する。

主題解説では、①文部科学省の地（知）の拠点整備事業を活用し地域創成に取り組む千葉大学、②複数キャンパスの再生・新設計画に際し、立地自治体・地域と戦略的に協働する立命館大学、③キャンパス計画が立地地域のアーバンデザインを牽引し、地域創生の主体となってきた韓国・驪州（よじゅ）大学という、特色ある 3 大学の活動概要と戦略的運営、キャンパスのあり方について話題を提供いただく。

次に、④多様な主体が地域創生に取り組む拠点：公民学連携による全国のアーバンデザインセンター（UDC）の活動事例を通じて、大学の関わりや効果について、さらに、⑤地域創生における大学キャンパスの役割についてアーバンデザイン論の観点から解説いただく。

さらに、主題解説者および都市計画研究者、実務者等の来場者とともに、地域創生に向けた地域と大学との戦略的な協働のあり方、解決すべき課題、有効な手法等について幅広く討論する。

空き家をリ・デザインする

[資料あり]

9月4日（金）14:30～17:30 松前記念館講堂

司会 中城康彦（明海大学）
副司会 森田芳朗（東京工芸大学）
記録 前島彩子（明海大学）

1. 主旨説明 柴田 建（九州大学）

2. 主題解説

① 長野での取り組み【民間型】

倉石智則（マイルーム）

② 千葉での取り組み【民間型】

寺井元一（まちづくりクリエイティブ）

③ 東京での取り組み【福祉との連携型】

安藤勝信（アンディート）

④ 大阪での取り組み【郊外住宅地型】

西上孔雄（NPO 法人すまいるセンター）

⑤ 空き家問題から考える社会システム再編のありかた

牧野知弘（オラガ HSC）

⑥ 建築社会システム再編：住宅ストック活用の視点から

齊藤広子（横浜市立大学）

⑦ 建築社会システム再編：建築・不動産マネジメントの視点から

田村誠邦（明治大学）

3. 討論 コメンテーター：松村秀一（東京大学）

4. まとめ 三橋博巳（日本大学）

人口・世帯減少の中で空き家問題は社会問題となりつつある。長年、放置され、管理されていない空き家は、景観の悪化、火災や犯罪等の誘引、倒壊の危険性など、地域に大きな迷惑をもたらす可能性がある。これまで各地方自治体でも条例や助成金、空き家バンクの設置などで対策を進めてきたが、それを国が後押しする「空き家等対策の推進に関する特別措置法」が施行された。しかし、空き家の増加はますます行政負担を増加させることになる。

そこで、空き家の予防・解消を促進することが基本的に求められ、そのための新たなデザイン・マネジメント方策を検討することが必要である。また、空き家は全国均一に進行しているわけではなく、地域や立地、住宅特性によりその状態や理由が異なっている。

そこで空き家の予防・活用には、地域事情を踏まえた建築社会システムの再編が必要である。

本研究協議会では上記の社会的背景のもとで、全国で実際に空き家活用に取り組んでいる多様な事例の報告を受け、建築社会システム再編として法制度・業態のあり方、民間、行政、大学の新たな役割、そのための教育のあり方等について討論をする。

建築社会システム部門——パネルディスカッション

公共施設マネジメントの担い手

[資料あり]

9月5日（土）14:00～17:30 1号館1B-306室

司会 小松幸夫（早稲田大学）
副司会 有川 智（東北工業大学）
記録 山下光博（建築保全センター）

1. 主旨説明 五十嵐健（早稲田大学）

2. 主題解説

- | | |
|-----------------|----------------|
| ①公共施設に迫る 7 つの危機 | 山本康友（首都大学東京） |
| ②財政から | 松村俊英（ジャパンシステム） |
| ③公開情報とその活用 | 円満隆平（金沢工業大学） |
| ④実践例 | 李 祥準（関東学院大学） |
| ⑤先進団体の取組み | 池澤龍三（建築保全センター） |

3. 討論

4. まとめ 板谷敏正（プロパティ・データバンク）

公共施設の管理計画については、多くの地方公共団体で検討が行われ、実施されてきた。上記パネリストらも多くの地方公共団体に助言、支援を行ってきた。各団体の計画は、その目的・実施形態が様々であり、目的については、施設の統廃合・再編、コスト削減、長寿命化、利用率の向上などがある。実施形態も、専門部署の設置、組織横断的なワーキンググループの設置、毎年の公共施設白書などでの成果確認などがある。その過程、成果、各団体の事例等は上記パネリストほか所属し、昨年度まで設置されていた「施設マネジメント小委員会」で情報交換、議論され、過去 3 度、大会パネルディスカッション、研究協議会が開催された。また、その成果をもとに、上記諸氏ほか連名で執筆し、『公共施設マネジメントハンドブック』が日刊建設新聞社から出版された。

本パネルディスカッションでは、まず各パネリストからその成果について簡単に紹介する。次に、平成 26 年 3 月に総務省からすべての地方公共団体に出された「公共施設等総合管理計画策定の要請」についての全国の地方公共団体の対応状況について報告する。その対応状況も様々であるが、特に地方中小都市では計画を策定、実施する人材の不足が課題となっている。また、本来は並行して進められている新公会計改革との連携が必要であるが、これも人材不足によりほとんど行われていない。本パネルディスカッションでは実施団体の事例を参考としつつ、公共施設マネジメントの担い手とあり方について議論する。

建築歴史・意匠部門——研究協議会

日本の戦後建築への新たな評価軸

——主に「技術」の視点から

[資料あり]

9月5日（土）9:45～13:00 2号館2E-102室

司会 藤田康仁（東京工業大学）
副司会 渡邊美樹（足利工業大学）
記録 二村 悟（工学院大学）

1. 主旨説明 山崎鯛介（東京工業大学）

2. 主題解説

- | | |
|--|----------------|
| ① Docomomo Japan 選定作品に見る近現代建築作品への評価の視点 | 田所辰之助（日本大学） |
| ②戦後の構造技術の発展とその維持継承に向けて | 川口 衛（法政大学名誉教授） |
| ③井上宇市アーカイブズに見る建築設備技術の発展 | 長谷見雄二（早稲田大学） |
| ④戦後近代建築の多様なファサード——素材と構法 | 鯉坂 徹（鹿児島大学） |
| ⑤近現代建築資料のアーカイブズと戦後作品の評価 | 山名善之（東京理科大学） |

3. 討論

4. まとめ 後藤 治（工学院大学）

日本の戦後建築に対する文化財保護の現状を見ると、この 10 年間にいくつかの建物が重要文化財指定を受けたものの、戦前作品の『日本近代建築総覧』に代わる基礎台帳については現在、データベースとして整理中であり、また築後 50 年を迎えて登録文化財の資格を得た 1964 年の東京オリンピック関連施設のいくつかは、次の 2020 年東京オリンピックに向けて歴史的評価が定まる前に改築された。このように戦後建築への対応には、従来以上のスピード感が求められている。

戦後、特に 1950～60 年代の高度成長期には都心部で高層のオフィスビルやホテル、大空間の公共建築など、急速な都市化を背景に戦前には見られないスケールの建物が登場し、また地方においても、庁舎や美術館、ホールなどの公共建築に斬新なデザインの作品が多く建設されたが、それらの多くは、戦前にはなかった新しい技術（構造、設備、構法、新素材、施工）によって支えられていた。しかし、そうした技術そのものも、その後の急速な技術発展の中で過去のものとして忘れられつつある。

今後、こうした優れた戦後建築を文化財として後世に伝えていくには、建物に対する積極的な歴史的評価とともに、こうした当時の新しい技術を正しく理解し、その技術史的価値を損なわないような保存活用の方法を検討することが不可欠である。

以上のような問題意識に立ち、今回の研究協議会では、日本の戦後建築の保護・継承の可能性について議論したい。

もう一つの「民家」の系譜 ——付属屋と小屋

[資料あり]

9月6日（日）9:30～13:00 2号館2E-102室

司会 大野 敏（横浜国立大学）
副司会 三浦要一（高知県立大学）
記録 長田城治（郡山女子大学）

1. 主旨説明 大野 敏（前掲）

2. 主題解説

①付属屋・小屋と業（なりわい）

二村 悟（工学院大学）

②付属屋の配置と建築構法——長崎県対馬市の事例を中心に

小林久高（島根大学）

③小屋と主屋——石造りの民家：九州と東アジアから

大場 修（京都府立大学）

④文化的景観のなかの付属屋と小屋——棟持柱祖形論の視点を含めて

土本俊和（信州大学）

3. 討論

4. まとめ 平山育男（長岡造形大学）

集落や町並みは主屋と付属屋の集合体として構成される。茶工場や船小屋などの例を出すまでもなく、人々は農漁業に関わる多様な生産施設や工作物を生業に根ざして創出し、地域性豊かな集落・町並景観を形成してきた。しかし、既往の民家史研究は、これらの存在を視野に入れつつも、研究の軸にすえることは稀で、農家であれ町家であれ、一貫して「主屋」を主たる対象にし続けてきた。付属屋や小屋の類いは建築の形式や構造が単純でしかも小規模、主屋ほど古くもなく、簡易で仮設的なものも多く、「建築史研究」の俎上には載せにくい、と思われてきた。

一方、川島宙次など民俗建築の分野は早くから付属屋にも関心を寄せてきたし、昨今の「文化的景観」は生業に基軸を据え、必然的に付属家屋の存在を重視する。安藤邦廣著『小屋と倉』や後藤治・二村悟らの『食と建築土木』などは近年の収穫である。では、これまでその存在を捨象し続けてきた建築史・民家史研究は、付属屋や小屋とどのように向き合うべきなのか。集落や町並みの景観を豊かに構成するこれら付属屋や小屋には、どのような研究的可能性があるのだろうか。

研究集会では、付属屋や小屋を工法、材料、地域性、生業との関わりなど、多様な視点から議論する。主屋と付属屋との関係、集落や都市の中で付属屋や小屋の存在が問われる。付属屋や小屋を通して、民家史研究の視野を主屋単体史から集落や町並みへと広げ、あるいは近世民家の古層にまで視野を深め、さらにはアジアとの接点も浮上するはずである。

事例を通して海洋建築の 計画・設計の特徴を考える

[資料あり]

9月6日（日）9:30～13:00 14号館14-204室

司会 関 洋之（梓設計）
副司会 居駒知樹（日本大学）
記録 川上善嗣（広島工業大学）

1. 主旨説明 遠藤龍司（職業能力開発総合大学校）

2. 主題解説

①海外の事例 1 増田光一（日本大学）

②海外の事例 2 原田鎮郎（環境システム研究所）

③国内の事例 1 野口憲一（近代建築保存研究所）

④国内の事例 2 佐々木仁（Arup）

⑤海洋建築の過去から未来へ 濱本卓司（東京都市大学）

3. 討論 進行：藤田謙一（千代田化工建設）

4. まとめ 遠藤龍司（前掲）

海洋建築委員会は、海洋を取り巻く環境の変化や技術革新の進展にともない、かねてから要望が高まっていた計画・構造・環境・材料施工分野を統合した『海洋建築の計画・設計指針』を本年出版し、講習会により広く周知するとともに多くの貴重なご意見をいただいたところである。本設計指針は、これまで体系的に示すことがなかった海洋建築のあるべき姿について、計画・設計と海洋環境との関連も考慮し、明確にしたところが特徴の一つとしてあげられる。

一方、海洋建築の必要性が検討され、いくつかの海洋建築がわが国にも現存するものの、その具体的な設計手法については陸上における建築の構造設計や造船技術等からの寄せ集めで行われてきたといっても過言ではない。すなわち、これまで海洋建築独自の設計方針は示されていなかったことになる。わが国の近海には海洋資源が豊富にあることもわかっており、資源開発のための居住空間としての海洋建築物や地震・津波等の自然災害の支援施設としての海洋建築物の設計手法の確立は急務であると考えられる。そこで、本委員会では、新たに出版された本設計指針に基づき、海洋資源開発や災害支援等のための海域や構造形式を想定した具体的な海洋建築物の設計例を検討する小委員会を本年度より発足させるに至った。

こうした状況を踏まえ、本年度の研究協議会では、これまで陸上の設計に携わってきた実務者が海洋建築を設計するに当たって考慮すべき要点を中心に、海外および国内の事例の紹介を通し、今後の海洋建築の設計・施工のあり方についての討論を行う。

地域の「レジリエンス」向上へとつなぐ地域空間情報の応用と展開

〔資料あり〕

9月5日（土） 14:00～17:30 14号館14-204室

司会 中澤公伯（日本大学）
副司会 藤井健史（東京理科大学）
記録 山田悟史（早稲田大学）

1. 主旨説明 倉田成人（筑波技術大学）

2. 主題解説

- ① オープンな地理データの取得と活用
古橋大地（青山学院大学）
- ② 復興・国土強靱化における生態系インフラストラクチャーの活用
鷺谷いづみ（中央大学）
- ③ eコミュニティ・プラットフォームを用いた地域防災の実践事例
田口 仁（防災科学技術研究所）
- ④ 自然災害のリスクをいかに理解し共有するか
小林祐司（大分大学）
- ⑤ GISを用いた住民意識の可視化による計画設計手法
大内宏友（日本大学）

3. 討論 モデレーター：河中 俊（国土技術政策総合研究所）

4. まとめ 江面嗣人（岡山理科大学）

近年、東日本大震災をはじめ、災害や異常気象が、各地に被害をもたらし、多くの課題が明らかとなった。これらは、従来の物理的な構造物のみの対処では、地域住民の安全性は保証できないことを明らかにしたといえる。今後起こりうる、これまでに経験したことのない多様な災害の対応に際し、地域再生における重要なソフトパワーである「レジリエンス」は、日常生活における「危険な変化を察知して対応する」コミュニティの強化をはじめ、災害直後の助け合いや、災害によって破綻した地域の安全・安心の拠り所を創り出す働きに対応するシステム構築の備えとして、重要である。この住民の防災意識を維持しつつ「レジリエンス」向上への方策として、地域空間情報の応用・展開による危険回避に向けた住民への可視化のみならず、安全・安心に対応するシステムのモデル構築は急務であると考えられる。

本研究協議会は、「レジリエンス」向上へとつなぐ地域空間情報の高度なGIS（地理情報システム）を用いたシミュレーション技術の応用と展開を中心に、最新事例の紹介を行う。具体的には、防災・減災に関して多方面の分野にて応用されているGISの分野横断的、実践的な取り組みである、オープンな地理データや生態系インフラの活用、eコミュニティなどの報告をもとに討論を行う。

今後の展望として、情報化社会に対応したGISと自然環境、資源管理、地域防災、避難施設の適正配置、地域コミュニティのあり方など、建築・都市・地域における「レジリエンス」向上へとつなぐ、生命を守るシステムの構築に向け、解決策の方途を示していきたい。

建築教育におけるワークショップの方法論とその意義

〔資料なし〕

9月5日（土） 9:30～13:00 14号館14-204室

司会 小林正美（明治大学）
副司会 平田京子（日本女子大学）
記録 長澤夏子（お茶の水女子大学）

1. 主旨説明 元岡展久（お茶の水女子大学）

2. 主題解説

- ① プロセス模型を用いた創造的な集団設計のための教育実験と都市政策へ
藤村龍至（東洋大学）
 - ② シャレットワークショップの10年——学生と地域との連携
高橋 潤（明治大学）
 - ③ 被災地支援ワークショップ——被災者の視点に立った実践手法
山本俊哉（明治大学）
 - ④ 国際ワークショップ CitySwitch2008-2015
山代 悟（大連理工大学、ビルディングランドスケープ）
3. 討論 コーディネーター：小林正美（前掲）
4. まとめ 石川孝重（日本女子大学）

これまでの日本の建築設計教育は、建物を与えられた敷地に新規に建てるため必要な知識と技術を広く修得する内容で構成されてきた。しかし、既存建築ストックの充実した現代日本では、新たに建築を建てることよりも、ストックを再評価し利活用しつつ建築の諸問題の解決をはかる職能が求められる。そのための人材育成には、従来の設計教育にとどまらない、ワークショップ型の教育手法の開発と普及が求められる。

教育上の必要性に加え、産学連携、地域連携が推進される大学教育において、まちづくり、被災地支援、国際交流など、多様なワークショップがすでに建築教育に取り入れられてきている。建物を建設する知識を基礎としつつも、現存する都市ストックに新たな価値を発見する能力、ならびに住民や他の専門家を交えて問題解決する能力、これらを高めるために、実践を交えたワークショップ型の教育が有効と考えられる。

専門分化された座学の枠を超え、地域、社会、産業に関わりながら問題解決に取り組むワークショップの試みが増加している一方で、このようなワークショップ型の教育を試みようとも、定まった方法やノウハウが共有されず、実際の運営で直面する問題も多い。なかなか試みに踏み切れずにいる教育担当者もいる。

本研究懇談会では、教育的観点から日本でおこなわれているワークショップ型教育について、実践者を交え議論する。実践者からの実例報告をもとに、教育方法としての位置づけやその効果を検討する。またワークショップをおこなう際の運営上の問題点などそのノウハウを広く共有する。具体的な事例に則し、ワークショップ型教育がめざす教育目標（どのような人材を育成するのか）、教育効果ならびに問題点について議論を深めたい。

社会変化に対応しうる 用途規制再構築の方向性 ——日本型条件付用途許可制度の可能性

[資料あり]

9月4日（金）14:00～17:30 11号館11-206室

司会 桑田 仁（芝浦工業大学）
副司会 飯田直彦（日本建築構造技術者協会）
記録 中川智之（アルテップ）

1. 主旨説明 有田智一（筑波大学）

2. 主題解説

① 現行の用途規制の抱える課題

米野史健（国土技術政策総合研究所）

② 1970 年建築基準法改正時の用途規制に係る議論

岡辺重雄（福山市立大学）

③ 自主条例を通じた用途コントロールの試み

秋田典子（千葉大学）

④ 米国の条件付許可制度から得られる示唆

堀 裕典（大阪市立大学）

3. 討論 日本型条件付用途許可制度の試案
中西正彦（横浜国立大学）

4. まとめ 柳沢 厚（C-まち計画室）

わが国の用途地域制およびそれに基づく建築物の用途規制は、急速に都市化が進んだ時代に形成された基本構造のまま部分的な改変がなされるに留まっており、近年のライフスタイルの変化や少子高齢化等に起因する社会ニーズの変化に適切に対応できなくなっている。

現行の用途規制は、建築基準法別表第二や政令に事前に明示された基準に基づき、主に建築の外形的な要素を建築時に「建築確認」する仕組みであるが、建築後の変化や運営・管理面も含めたコントロールの視点が欠けており、既存ストック活用や市街地の用途複合化などが進む今日の社会の変化に対応できていないと考えられる。

本研究協議会では、まずは上記のような現行の用途規制の抱える課題について、具体例を示しつつ論じる。例えば、現行の用途規制の規制目的と手段に齟齬が生じているため紛争を生じているケースや、既存建物の用途転用により外形上の変化を伴わずに建物内部の運営のみが変化する事例などを紹介する。

続いて、これら課題への対応の仕方を考えるため、1970 年の建築基準法改正時に検討されたが不採用とされた集団規定（地域制）の案を取り上げ、その論点と意義を再検証する。また、自主条例を通じて独自の用途コントロールを行っている自治体の事例を提示し、その可能性を展望する。さらに、個別審査で特例的許可を行う米国の条件付用途許可制度の仕組みと運用実態を紹介し、そこから得られる示唆について論じる。

最後に、これらの主題解説の内容を踏まえて、今日の課題に対応する方向性として日本型の条件付用途許可制度というものを想定し、その可能性について議論する。

都市・建築分野における これからの地球環境対策 ——パリ合意に向けて

[資料あり（PD（1）（2）共通）]

9月6日（日）9:30～13:00 松前記念館講堂

司会 外岡 豊（埼玉大学）
副司会 須山喜美（安藤ハザマ）
記録 吉田友紀子（大阪大学）

1. 主旨説明にかえて：日本建築学会の取組み

吉野 博（日本建築学会前会長／東北大学）

2. 主題解説

① 日本の削減目標案と気候変動条約交渉

平田仁子（気候ネットワーク）

② 再生可能エネルギーへの期待

梶屋治紀（システム技術研究所）

③ グリーンビルディングと都市の気候変動対策行政

西田裕子（東京都）

④ 地球の声を聞く都市・建築デザイン

大野二郎（日本設計）

⑤ 日本の排出削減シナリオと都市・建築分野の取り組み

外岡 豊（前掲）

3. 討論

4. 午前の部まとめ 横尾昇剛（宇都宮大学）

気候変動対策について本学会は 2009 年に 2050 年カーボンニュートラル達成というビジョンを公表したが、そのアクションプランを作成し、この 4 月に公開した。また昨年度、18 団体を誘って低炭素社会推進会議を設立し、更なる対策推進を模索している。

地球環境委員会では単に省エネルギーを通じた排出削減だけでなく、国産木材利用を含む材料、構造、ライフスタイル、教育、企画設計見直し、都市・地域的な対策、あるいは不動産評価等、LCA 的な観点や、災害対応等も含めて震災前とは違った新しい研究への取り組みを各小委員会や WG で行い、公開の研究集会も多数開催して来た。

今年 12 月パリで開催される COP21 交渉にむけて日本政府は 2013 年比で 2030 年までに温室効果ガスを 26 % 排出削減する目標を決定したが、長期的な展望に欠けた消極的な対応に内外から失望の声が上がっている。

建築分野では床面積当の省エネは相当に進んでいるが活動量の増大、世帯の小規模化、高齢化等が省エネルギー成果を相殺し、震災後は原発代替の火力発電により電力 CO₂ 排出係数も高くなっており、排出量削減は進んでいない。ドイツでは経済成長の一方で原発の廃止を決め、再生可能エネルギーの積極導入により温室効果ガスの排出は減少する decoupling が進んでいるのと対照的な実情がある。

午前の部では日本の気候変動対策について、特にパリ合意に向けた削減目標に関連して総論し、午後の部では低炭素社会への分野別の対策課題について各論を行う。全体を通じて新規再発足した地球環境委員会が担うべき課題を整理し、その役割を確認する。

都市・建築分野における
これからの地球環境対策
——低炭素な都市・建築をつくる手法と実例

[資料あり (PD (1) (2) 共通)]

9月6日 (日) 14:00～17:30 松前記念館講堂

司会 中村 勉 (ものづくり大学名誉教授)
副司会 横尾昇剛 (宇都宮大学)
記録 中村美和子 (エコロジーアーキスケープ)

午前の部・概要報告 横尾昇剛 (前掲)

1. 主旨説明にかえて：13 の課題と質問

中村 勉 (前掲)

2. 主題解説

① これからの排出削減——建築から都市へ

佐藤信孝 (日本設計)

② ファイバースティ・第四の交通・CMA

大野秀敏 (アプル総合計画事務所)

③ 低炭素社会をつくる今後の都市環境政策

小澤一郎 (都市づくりパブリックデザインセンター／日本都市計画学会)

④ 外部環境の緑化・水系化がヒートアイランド都市を救う

梅干野晃 (放送大学)

⑤ 環境コミュニティとエコライフスタイル

糸長浩司 (日本大学)

3. 討論 モデレーター：中村 勉 (前掲)

4. 全体まとめ 小林 光 (慶應義塾大学)

地球環境委員会はその前進である特別研究の時期を含めて 25 年の歴史があるが、新規の 10 年間の延長が認められ、本年度はその初年度に当たり、これからの 10 年間に取り組むべき研究課題、社会に向けて発信すべき緊急課題について論点整理を行いたい。特に 2014 年に学会を軸として建築関連 18 団体で設立した低炭素社会推進会議は非常に重要な組織で、2050 年の低炭素社会を見据えた建築・都市の在り方に関する提言を行っていくことを目的としている。

地球環境委員会もその流れを促進すべく、2009 年の温暖化対策ビジョンを受けた、本会のアクションプラン (2014 年度理事会承認) を政策提言および研究開発のテーマとして実施していくこととしている。

これを受けて、本パネルディスカッションでは、低炭素社会における、建築分野の省エネ化、その住宅分野と業務分野のパッシブ環境基本性能を基本とした実践、都市環境政策に対する新しい提案、外部環境の都市景観整備と合わせた環境性能調整、そして農のあるライフスタイルなどによる、低成長時代の豊かな社会を構築する考え方を各論者から提案を受け、議論したいと思う。

地球環境問題は関連分野も広く多岐にわたる幅広い検討が必要になるため、そこで本大会の研究集会では午前、午後に分けて徹底討論を行う企画とした。午前の部は総論、午後の部は分野別の各論を行う。

これからの地球環境委員会の活動に向けて多数の方々の意見を取り込む機会として、大会最終日の一日を実りある討論の場としたい。

建築における専門家倫理
——倫理綱領改定と倫理教育の実践

[資料なし]

9月4日 (金) 14:00～17:30 1号館1B-204室

司会 石川孝重 (日本女子大学)
副司会 高巢幸二 (北九州市立大学)
記録 増田幸宏 (芝浦工業大学)

1. 主旨説明と倫理用教材の概説 松藤泰典 (北九州市立大学)

2. 主題解説

① 日本建築学会倫理綱領の改定 若井正一 (日本大学)

② 建築にかかわる専門家倫理 石川孝重 (前掲)

③ 建築設計の倫理 増田幸宏 (前掲)

④ 建築の倫理教育と授業実践 (構造) 平田京子 (日本女子大学)

⑤ 建築環境の倫理 外岡 豊 (埼玉大学)

⑥ 行動 (実践) 倫理 高橋信之 (早稲田大学)

3. 討論

4. まとめ 神田 順 (日本大学)

2005 年の耐震偽装問題やさまざまな欠陥隠蔽、技術・製品の偽装問題等が社会に大きな影響を与えており、それらの解決には専門家としての倫理、見識の育成がかかわっていることが多い。それゆえ、現代において建築における専門家倫理教育・研修の意義はますます高まっている。

これまで倫理委員会では実務者と大学生・院生への倫理教育のための教育状況調査、教育サポートやプログラム開発、企業での倫理研修の支援を行ってきた。2014 年には本会の倫理綱領・行動規範を耐震偽装問題や研究者倫理問題、東日本大震災後の現代社会を見据えて改定した。また、倫理綱領の全文とその改定骨子を盛り込むかたちで『日本建築学会の技術者倫理教材』の改定を行った。今、技術者倫理に求められるものは何か、何を我々は次代に継承すべきか、綱領の改定と教材の改定の解説から本研究懇談会を始めることとした。

主題解説では、建築にかかわる専門家の倫理として求められるもの、建築設計、構造設計・技術開発、建築環境のそれぞれの観点から、具体的にどのような教育目標を設定し、専門家倫理の醸成を達成するのか、完成したばかりの教材 (学会ホームページから公開) について紹介し議論を深めたい。

多くの充実した倫理に関する名著や教材が溢れている現況の中で、それでも世に倫理問題は絶えることがない。この有益な著作を、絶え間なく発生する倫理問題の減衰に向けて発展させるためには、如何なる繋縛手法があるのだろうか。画餅倫理学、机上倫理学と言われる現状を憂え、既存倫理学と行動 (実践) 倫理学との協働手法を考えてみたい。

本研究懇談会では、委員会で議論・検討してきた倫理を紹介し、参加者の皆様と共有し、広く意見交換を行い、今後の専門家倫理のあり方とその具体的な教育方法について考える機会としたい。

専門家と一般市民の コミュニケーション体系の構築

[資料あり]

9月4日（金）10:00～13:00 2号館2E-102室

司会 安藤正雄（千葉大学）
副司会 田中稲子（横浜国立大学）
記録 鈴木あるの（京都大学）

1. 主旨説明 藤井俊二（B.E.R.）

2. 情報共有化の課題

- | | |
|---------|---------------|
| ①住まいづくり | 小林文香（広島女学院大学） |
| ②耐震性能 | 向井智久（建築研究所） |
| ③まちづくり | 杉崎和久（法政大学） |
| ④環境 | 一ノ瀬雅之（首都大学東京） |

3. 情報共有化への取組み

- | | |
|----------------|---------------|
| ⑤建築学会における取組み | 小檜山雅之（慶應義塾大学） |
| ⑥市民アンケート | 平田京子（日本女子大学） |
| ⑦コミュニケーションデザイン | 伊藤香織（東京理科大学） |

4. 討論 安藤正雄（前掲）、藤井俊二（前掲）、平田京子（前掲） 特別調査委員会委員、マスコミ関係者、自治体関係者

5. まとめ 福田卓司（日本設計）

市民が住宅の取得やまちづくりで適切な判断をするためには建築・都市分野の専門知識や情報が必要である。また、将来に向けた良好な建築・都市環境の構築のためには、市民の同意や推進のための世論形成が必要である。しかし、専門家と一般市民の間で知識や情報が共有化されていないために、市民が判断をあやまって不利益を被る場合や、望ましい建築・都市環境の構築が進まないという実態がある。そこで建築関連の専門知識や情報を専門家と一般市民とで共有化する方法を調査研究するために、本特別調査委員会が2015年4月に設置された。コミュニケーションの現状と問題の把握、コミュニケーション手法の検討を行って、コミュニケーション体系の構築と普及をはかっていく計画である。

主旨説明では建築・都市分野における専門家と市民の関わり、コミュニケーションの必要な場面、コミュニケーションの現状の問題を整理して紹介し、今後の展望と特別調査委員会のねらいについて述べる。主題解説では4つの専門分野におけるコミュニケーションの現状と課題を紹介する。ついで、これまでに行われている情報共有化のための取組みについて紹介する。討論ではこれらの様々な分野からの主題解説をもとに、特別調査委員会委員に加えて、マスコミ関係者、自治体の関係者なども議論に参加して、今後のコミュニケーション体系の構築と普及に向けた方策について議論を進める。最後にこれらの主題解説と討議を踏まえて、特別調査委員会における研究の方向性をまとめる。

気候変化による災害を防止する 建築・都市地域のガイドライン づくりに向けて

[資料あり]

9月6日（日）14:00～17:30 14号館14-202室

司会 持田 灯（東北大学）
副司会 富永禎秀（新潟工科大学）
記録 大風 翼（東北大学）

1. 主旨説明 佐土原聡（横浜国立大学）

2. 主題解説

- | | |
|----------------------------------|---------------|
| ①ガイドラインの枠組み整理 | 佐土原聡（前掲） |
| ②風害の視点から | 田村幸雄（東京工芸大学） |
| ③水害の視点から | 戸田圭一（京都大学） |
| ④土砂災害の視点から | 二木幹夫（ベターリビング） |
| ⑤高温化リスクの視点から | 鳴海大典（横浜国立大学） |
| ⑥雪害の視点から | 高橋 徹（千葉大学） |
| ⑦ガイドラインのまちづくりへの展開、市民理解・合意・普及に向けて | 葉袋奈美子（日本女子大学） |

3. 討論 コーディネーター：持田 灯（前掲） コメンテーター：田村和夫（千葉工業大学）ほか

4. まとめ 岩田 衛（神奈川大学）

近年、大型台風、竜巻等の風災害、豪雪、豪雨、高潮、猛暑（熱中症）等の気象災害の被害が急増しており、都市活動や我々の生活の大きな脅威となってきている。そして気候変化が今後、この傾向を促進する恐れがあると言われている。

現在、本会の関係する各委員会で、風災害、豪雪、豪雨、猛暑等への対策が個別に検討されているが、各々の対策メニューの中には共通するものと相反するものがあり、体系的な取り組みが必要である。また、これら災害の被害の増加は社会の高齢化等とも関係しており、そのリスクの低減のためには、構造・設備等のハードな対策だけでなく、居住域の配置や人の動線計画、地域コミュニティの維持等に関わる計画的な視点も不可欠である。

このような状況に鑑みて、本特別調査委員会では、本会の総力を結集するとともに、気象系の専門家の協力も仰いで活動を進めている。タスクフォースから続く同委員会の初年度の取り組みでは、体系的な取り組みのための整理、近年の各種気象災害（台風、突風、豪雨、豪雪、猛暑等）急増のメカニズム、各々の気象災害の防止・低減対策に関する最新の研究のレビューなどを行ってきたが、気候変化の進行と気候変動による振幅の増大によって、経験値による予想をはるかに超えた現象が起こることが基本的に問題であることが整理された。

そこで、本パネルディスカッションでは、これらの取り組み内容をレビューするとともに、既存のガイドラインなどをこの基本的な視点から見直して、本会で今後取り組むべき研究課題を抽出し、全体の調和のとれた都市的・建築的な対策を推進するためのガイドラインの作成に向けて広く議論する。